

労災疾病臨床研究事業費補助金

職業性ストレス簡易調査票の外国語版の作成に関する研究

平成30年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 横山 和仁

平成31（2019）年 3月

労災疾病臨床研究事業費補助金

職業性ストレス簡易調査票の外国語版の作成に関する研究

総括・分担研究報告書

平成30年度（3年計画の1年目）

<研究代表者>

横山 和仁 順天堂大学医学部衛生学講座 教授

<研究分担者>

湯浅 資之 順天堂大学国際教養部グローバルヘルスサービス領域 教授

和田 耕治 国際医療福祉大学医学研究科公衆衛生専攻 教授

谷川 武 順天堂大学医学部公衆衛生学講座 教授

遠藤 源樹 順天堂大学医学部公衆衛生学講座 准教授

浦川 加代子 順天堂大学保健看護学部 教授

武藤 剛 順天堂大学医学部衛生学講座 非常勤助教

小田切 優子 東京医科大学公衆衛生学分野 講師

<研究協力者>

北村 文彦 順天堂大学医学部

黒澤 美智子 順天堂大学医学部

松川 岳久 順天堂大学医学部

伊藤 弘明 順天堂大学医学部

細川 まゆ子 順天堂大学医学部

久保田 章乃 順天堂大学医学部

山崎 友丈 マインメンタルヘルス研究所

春山 康夫 獨協医科大学

邱 冬梅 国立精神・神経医療研究センター
富田 茂 高田馬場さくらクリニック
和田 裕雄 順天堂大学医学部
野田 愛 順天堂大学医学部
友岡 清秀 順天堂大学医学部
佐藤 准子 順天堂大学医学部
武藤 剛 順天堂大学医学部
エスコバル 露 桜子 前千葉大学医学研究院、元エルサルバドル大学
平山 響子 横浜国際日本語学校
潤間 拓郎 ウルマ行政書士事務所
中川 隆太郎 多摩大学医療・介護ソリューション研究所

目 次

I. 総括研究報告書		
職業性ストレス簡易調査票の外国版の作成に関する研究	-----	1
横山 和仁		
II. 分担研究報告書		
1. 職業性ストレス簡易調査票の外国版の作成に関する研究		
ペルシヤ語版の作成	-----	7
横山 和仁		
2. 職業性ストレス簡易調査票の外国版の作成に関する研究		
- ポルトガル語版およびミャンマー語版 -	-----	11
湯浅 資之		
3. 職業性ストレス簡易調査票の外国版の作成に関する研究		
ベトナム語版の作成	-----	19
和田 耕治		
4. 職業性ストレス簡易調査票中国版作成に関する研究	-----	25
谷川 武、遠藤 源樹		
5. 職業性ストレス簡易調査票の外国版の作成に関する研究		
スペイン語・ダガログ語版の作成	-----	31
武藤 剛		
6. インドネシア語版職業性ストレス簡易調査票の開発と		
その日本における適用	-----	41
小田切 優子		
7. アジア圏における職業性ストレスに関する研究の動向：海外文献レビュー		
浦川 加代子	-----	45
III. 研究成果の刊行に関する一覧表		
IV. 研究成果の刊行物・別刷	-----	59

I. 総括研究報告書

職業性ストレス簡易調査票の外国版の作成に関する研究

研究代表者 横山 和仁 順天堂大学医学部衛生学講座 教授

研究要旨

平成27年の労働安全衛生法改正により、常時 50 人以上の労働者を使用する事業者には労働者のストレスチェックと面接指導等が義務付けられた。ストレスチェックでは、職業性ストレス簡易調査票（57項目）が標準となっている。平成 29 年 6 月末現在、ストレスチェックは実施義務のある事業場の82.9%で行われ、所属労働者の78.0%が受け、0.6%に医師の面接指導が行われている。

一方、平成29年10月末に、外国人労働者数は1,278,670人、雇用事業所数は194,595か所で、平成19年に届出が義務化されて以来、過去最高を更新している。国別は中国が最多（29.1%）、次にベトナム（18.8%）、フィリピン（11.5%）で、対前年伸び率は、ベトナム（39.7%）、ネパール（31.0%）が高い。従って、外国語版職業性ストレス簡易調査票の標準化（信頼性・妥当性確立等）が求められる。英語版はすでに標準化され厚生労働省により公開されているが、他の言語は、一部翻訳版は存在しているがバックトランスレーション、信頼性・妥当性検証は行われていない。

本事業では、各国語版職業性ストレス簡易調査票を作成・標準化し、文化の違い等を踏まえた、職場環境改善等に配慮すべき点を明らかにすることを目的として3年計画の研究を開始した。

研究 1

本年度は事業の最初の年度として、基本となる外国語版ストレス簡易調査票作成に取り掛かった。厚生労働省が公開している日本語および英語版を用いて翻訳した。手順として日本語版または英語版から各言語に翻訳し、その後他の者が逆翻訳を行ったのちに、検討し各言語版を作成した。ペルシャ、中国、スペイン、タガログ、ポルトガル、ミャンマーベトナム語版のストレス簡易調査票（57 項目）翻訳版を作成した。インドネシア語版は分担研究者らが協力してインドネシア大学医学部で日本語版新職業性ストレス簡易調査票（80 項目）を基にしたものが作成された。

研究 2

ポルトガル語版およびミャンマー語版を用いてそれぞれの労働者に対してプレテストを行った。満足度に関するCronbach α 係数は中等度を示したが、質問数が2つと小さかったからと考えられる。全体のCronbach α 係数はポルトガル語版で0.95、ミャンマー語版で0.95であり、高い再現性と内部一貫性が確認された。

インドネシア国内において労働者を対象にインドネシア語版新調査票を実施して心理

測定学的検討を行ったところ、一部の尺度は寄与率が低いことからインドネシア語版新職業性ストレス簡易調査票では削除されることとなった。これにはインドネシアと日本の間にある労働に対する価値観や文化の違いが関与している可能性がある。Cronback- α 信頼性係数は3項目以上で構成される尺度で0.62以上あり良好であった。日本国内のストレスチェック制度でインドネシア語版を使用する場合は、日本人に使用する場合と同様に57項目版が推奨されるため、インドネシア国内版では削除された項目も含めて、日本国内用インドネシア語版職業性ストレス簡易調査票57項目を準備し、次年度に日本国内在住のインドネシア人労働者を対象にデータを収集し検討する予定である。

研究3

アジア圏の職業性ストレスに関する研究の知見を明らかにする目的で、88編の文献を検討した。その結果、インドを除いてはバーンアウトに関する研究を中心にメンタル不全者の早期発見・対応、相談体制・職場復帰に関する体制づくりに関連した研究の知見が蓄積されつつあるが、労働者の休職後の職場復帰訓練や精神障害等の症状に対する事例への対応に焦点をあてた研究は、まだ数少なく今後の研究課題であることが明らかになった。

国別の研究では、中国は、職業性ストレスに関連した各種の尺度開発が多く実施されており、最近では労働者個人を対象とした第2次・3次予防的な対策（第4区分）の効果判定に関する研究へと進展している。韓国では、職場でのストレス管理および精神健康増進の重要性が認識されており、心理社会的ストレスに着目した研究が多くみられる。台湾では、労働安全衛生に関する方針を明確にしていることから、今後さらに研究が進展していくことが予測される。

一方、インドでは、研究対象者が第一次産業に従事する労働者であり、心理社会的ストレスに関する内容やメンタルヘルス不全者の早期発見・対応につながる内容が見当たらない。また、その他の国としてタイ、イラン、モンゴル、インドネシア、レバノン、トルコ、イエメン、フィリピンでの研究は少なくこれから知見を蓄積していく段階であることが明らかになった。

このようにアジア圏における職業性ストレス研究は国別に進展の差が大きく、労働者個人を対象とした第2次・3次予防的な対策は欧米のように優勢ではないが、すでに始まっており今後増加していくことが予測された。

<研究分担者>

公衆衛生専攻教授

湯浅 資之

順天堂大学国際教養部

谷川 武

グローバルヘルスサービス領域教授

順天堂大学医学部公衆衛生学講座教授

和田 耕治

遠藤 源樹

国際医療福祉大学医学研究科

順天堂大学医学部公衆衛生学講座准教授

浦川 加代子
順天堂大学保健看護学部教授

武藤 剛
順天堂大学医学部衛生学講座非常勤助教

小田切 優子
東京医科大学公衆衛生学分野講師

<研究協力者>
北村 文彦
順天堂大学医学部

黒澤 美智子
順天堂大学医学部

松川 岳久
順天堂大学医学部

伊藤 弘明
順天堂大学医学部

細川 まゆ子
順天堂大学医学部

久保田 章乃
順天堂大学医学部

山崎 友丈
マインメンタルヘルス研究所

春山 康夫
獨協医科大学

邱 冬梅
国立精神・神経医療研究センター

富田 茂
高田馬場さくらクリニック

和田 裕雄
順天堂大学医学部

野田 愛
順天堂大学医学部

友岡 清秀
順天堂大学医学部

佐藤 准子
順天堂大学医学部

武藤 剛
順天堂大学医学部

エスコバル 露 桜子
前千葉大学医学研究院
元エルサルバドル大学

平山 響子
横浜国際日本語学校

潤間 拓郎
ウルマ行政書士事務所

中川 隆太郎
多摩大学医療・介護ソリューション研究所

A. 研究目的

平成27年の労働安全衛生法改正により、常時 50 人以上の労働者を使用する事業者には労働者のストレスチェックと面接指導等が義務付けられた。ストレスチェックでは、職業性ストレス簡易調査票（57項目）が標準となっている。平成

29年6月末現在、ストレスチェックは実施義務のある事業場の82.9%で行われ、所属労働者の78.0%が受け、0.6%に医師の面接指導が行われている。

一方、平成29年10月末に、外国人労働者数は1,278,670人、雇用事業所数は194,595か所で、平成19年に届出が義務化されて以来、過去最高を更新している。国別は中国が最多（29.1%）、次にベトナム（18.8%）、フィリピン（11.5%）で、対前年伸び率は、ベトナム（39.7%）、ネパール（31.0%）が高い。

従って、外国語版職業性ストレス簡易調査票の標準化（信頼性・妥当性確立等）が求められる。英語版はすでに標準化され厚生労働省により公開されているが、一方、他の言語は、静岡労働局が中国・ベトナム・ポルトガル語版を公開し、またスカネット株式会社が中国・ベトナム・ポルトガル・タガログ語版を市販しているが、バックトランスレーション、信頼性・妥当性検証は行われていない。

本事業では、各国語版職業性ストレス簡易調査票を作成・標準化し、文化の違い等を踏まえた、職場環境改善等に配慮すべき点を明らかにすることを目的として開始した。

研究1

各言語版ストレス簡易調査票の作成

（研究分担者 横山和仁、湯浅資之、和田耕治、谷川武、遠藤源樹、武藤剛、小田切優子）

中国、ベトナム、フィリピン（タガログ）、ポルトガル、インドネシア、スペイン、ミャンマー語およびペルシャ語の

ストレス簡易調査票を作成する。

研究2

作成された各言語版ストレス簡易調査票の信頼性・妥当性の検討

（研究分担者 湯浅資之、小田切優子）

研究1にて作成された質問票を用いて、信頼性・妥当性の検討に入る。本年度は進行の関係で、ポルトガル、ミャンマー語およびインドネシア語版で開始した。

研究3

アジア圏における職業性ストレスに関する動向

（研究分担者 浦川加代子）

アジア圏における各国の職業性ストレスに関する研究からの知見を明らかにする。

B. 研究方法とその結果

上記の目的に基づき、以下の分担研究を行った。

研究1

<方法>

厚生労働省が公開しているストレス簡易調査票（57項目）をペルシャ語（横山）、中国語（谷川、遠藤）、スペイン語（武藤）、タガログ語（武藤）、ポルトガル語（湯浅）、ミャンマー語（湯浅）、およびベトナム語（和田）に翻訳した。標準版として厚生労働省が公開している日本語または英語版を用いて世界保健機関の翻訳プロセスを基に翻訳を行った。

<結果>

ペルシャ、中国、スペイン、タガログ、ポルトガル、ミャンマーベトナム語版のストレス簡易調査票（57項目）翻訳版を

作成した（各分担報告書別紙）。インドネシア語版は分担者（小田切）らが協力してインドネシア大学医学部で日本語版新職業性ストレス簡易調査票（80項目）を基にしたものが作成された。

研究2

<方法>

研究2-i

翻訳したポルトガル語版およびミャンマー語版を用いて、それぞれ東京新宿区に在住しているブラジル人30名と同じく同区在住のミャンマー人30名に対してプレテストを行い、信頼度をCronbach α 係数で評価した。

研究2-ii

インドネシア国内の2事業場の労働者を対象に新職業性ストレス簡易調査票を配布し、得られたデータを因子分析し妥当性を、Cronbach- α 係数を計測し信頼性を検討した。

<結果>

研究2-i

ポルトガル語版およびミャンマー語版の満足度に関するCronbach α 係数は中等度を示したが、全体ではそれぞれ0.95と0.95であった。

研究2-ii

80項目の因子分析にて因子負荷量が0.4以上の項目を残すプロセスを繰り返し実施して17項目を削除し、第一主成分を構成する項目を内容的に整理して、13因子、63項目からなるインドネシア語版新職業性ストレス簡易調査票が出来上がった。構成する13因子のCronbach-

α 信頼性係数の各数値は0.62~0.88で高かった。

研究3

<方法>

2018年8月、医学中央雑誌Web版によって、「職業性ストレス」と「アジア」をキーワードに検索し157編の中から、解説5編、総説4編、特集2編を除く146編の論文を抽出した。国別の論文数は、日本が57編と最も多く、中国（香港2編、上海1編）21編、韓国20編、台湾14編、インド12編であり、その他9カ国は5編以下であった。東南アジア地域を対象とした1編は国の特定ができないため除外し、日本の論文を除く88編を分析対象とした。

<結果>

中国は、職業性ストレスに関連した各種の尺度開発が多く実施されており、最近は労働者個人を対象とした第2次・3次予防的な対策の効果判定に関する研究へと進展していた。韓国では、職場でのストレス管理および精神健康増進の重要性が認識されており、心理社会的ストレスに着目した研究が多くみられた。台湾では、労働安全衛生に関する方針を明確にしていることから、今後さらに研究が進展していくことが予測される。

一方、インドでは、研究対象者が第一次産業に従事する労働者であり、心理社会的ストレスに関する内容やメンタルヘルス不全者の早期発見・対応につながる内容が見当たらず、その他の国（タイ、イラン、モンゴル、インドネシア、レバノン、トルコ、イエメン、フィリピン）

での研究は少なかった。

C. 考察

今年度の研究では、以下のことが示唆された。

研究1

今年度は予定通り、ペルシャ、中国、スペイン、タガログ、ポルトガル、ミャンマー、インドネシア語およびベトナム語版のストレス簡易調査票の翻訳版がそろえることができた。一部内容の検討を開始しているが、次年度以降大規模調査を行い、信頼性・妥当性の検討に入る。県の西部地域に多くの外国人労働者が働く企業が存在する静岡労働局及び産業保健総合支援センターなどの協力を得ることができている。これらと分担研究者および研究協力者の関連する施設や企業の労働者を対象に調査を進めていく。

研究2

研究2-i

主にブラジル人を対象とした職業性ストレス簡易調査票ポルトガル語版、およびミャンマー語版が作成された。満足度に関する Cronbach α 係数は中等度を示したが、これは質問数が2つと小さかったことに由来すると考えられる。全体ではポルトガル語版で0.95、ミャンマー語版で0.95であり、高い再現性と内部一貫性が確認された。

研究2-ii

インドネシア大学医学部の研究者らの協力を得てインドネシア語版新職業性ストレス簡易調査票が作成され、オリジナルの57項目を含め心理測定特性の検討が

行われ、高い内的信頼性および因子の妥当性が示された。

日本国内におけるインドネシア語版職業性ストレス簡易調査票は、主にストレスチェック制度において用いられることから、日本国内版インドネシア語版職業性ストレス簡易調査票は、日本語と同じ57項目として準備することとした。

研究3

アジア圏における職業性ストレス研究は国別に進展の差が大きく、労働者個人を対象とした第2次・3次予防的な対策は欧米のように優勢ではないが、すでに始まっており今後増加していくことが予測された。

D. 健康危険情報

該当事項なし

E. 研究発表・学会発表

なし

F. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
2. 実用新案登録
3. その他

1・2・3ともに該当事項なし

II. 分担研究報告書

職業性ストレス簡易調査票の外国語版の作成に関する研究 ペルシャ語版の作成

研究分担者 横山 和仁 順天堂大学医学部衛生学講座 教授

研究要旨

わが国のストレスチェックでは、職業性ストレス簡易調査票（57項目）が標準となっている。外国人労働者の増加に伴い、各種の言語にて作成することが求められた。本分担研究班ではペルシャ語版の作成を担当することとなった。本年度は、英語版をペルシャ語版に翻訳ならびに逆翻訳、第3者翻訳者の確認、イラン人医師の監修、ならびに再度翻訳者による改訂が行われ、ペルシャ語版の作成を行った。

<研究協力者>

北村 文彦
順天堂大学医学部

黒澤 美智子
順天堂大学医学部

松川 岳久
順天堂大学医学部

伊藤 弘明
順天堂大学医学部

細川 まゆ子
順天堂大学医学部

久保田 章乃
順天堂大学医学部

山崎 友丈
マインメンタルヘルス研究所

A. 研究背景および目的

職業性ストレス簡易調査票（57項目）が標準となっている。平成29年6月末現在、ストレスチェックは実施義務のある事業場の82.9%で行われ、所属労働者の78.0%が受け、0.6%に医師の面接指

導が行われている。一方、平成29年10月末に、外国人労働者数は1,278,670人、雇用事業所数は194,595か所で、平成19年に届出が義務化されて以来、過去最高を更新している。このような中で、外国語版職業性ストレス簡易調査票の標準化（信頼性・妥当性確立等）が求められる。英語版はすでに標準化され厚生労働省により公開されているが、一方、他の言語は、静岡労働局が中国・ベトナム・ポルトガル語版を公開し、またスキャネット株式会社が中国・ベトナム・ポルトガル・タガログ語版を市販しているが、バックトランスレーション、信頼性・妥当性検証は行われていない。

こうした事情を踏まえて本グループではペルシャ語版の職業性ストレス簡易調査票の作成を進め、信頼性・妥当性の検討を担当することになった。

B. 研究方法

イラン人医師が英語からペルシャ語に翻訳した。その後別のイラン人医師がペルシャ語から英語に翻訳した。次に第3のイラン人医師が翻訳の差については検討を行った。これを基にイラン人医師が確認して最終版を作成した。

C. 研究結果

別紙にペルシヤ語版を添付した。

D. 考察

職業性ストレス簡易調査票のペルシヤ語版は翻訳手順により作成することができた。単なる職業翻訳家ではなく、医師により対応することで、より適切な用語を用いることができた。

今後、イラン人労働者を対象に今回作成したストレスチェックペルシヤ語版を用いた調査を行い、信頼性・妥当性の検討を行う予定である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表・学会発表

特になし

H. 知的財産権の出願・登録

特に記載すべきものなし

I. 参考文献

特になし

۴	۴	۲	۱	----- احساس یأس داشته ام	۳۳
۴	۴	۲	۱	----- قادر به انجام کارهایم نبوده ام	۳۴
۴	۴	۲	۱	----- غمگین بوده ام	۳۵
۴	۴	۲	۱	----- احساس سرگیجی داشته ام	۳۶
۴	۴	۲	۱	----- درد مفصلی را تجربه کرده ام	۳۷
۴	۴	۲	۱	----- سردرد را تجربه کرده ام	۳۸
۴	۴	۲	۱	----- گرفتگی گردن یا شانه داشته ام	۳۹
۴	۴	۲	۱	----- کمر درد داشتم	۴۰
۴	۴	۲	۱	----- خستگی چشم داشته ام	۴۱
۴	۴	۲	۱	----- تپش قلب یا تنگی نفس را تجربه کرده ام	۴۲
۴	۴	۲	۱	----- مشکلات معده یا روده را تجربه کرده ام	۴۳
۴	۴	۲	۱	----- اشتهایم را از دست داده ام	۴۴
۴	۴	۲	۱	----- اسهال یا یبوست را تجربه کرده ام	۴۵
۴	۴	۲	۱	----- نمی توانستم خوب بخوابم	۴۶

لطفاً با کشیدن دایره دور بهترین گزینه، به سوالات زیر در خصوص اطرافیانتان پاسخ دهید.

اصلاً	تأحدی	خیلی زیاد	فوق العاده		
					تا چه اندازه می توانید آزادانه با افراد زیر صحبت کنید؟
۴	۴	۲	۱	----- سرپرست ها	۴۷
۴	۴	۲	۱	----- همکاران	۴۸
۴	۴	۲	۱	----- همسر، خانواده، دوستان و غیره	۴۹
					هنگامی که شما دچار مشکل می شوید، افراد زیر تا چه قدر قابل اعتماد و اتکا هستند؟
۴	۴	۲	۱	----- سرپرست ها	۵۰
۴	۴	۲	۱	----- همکاران	۵۱
۴	۴	۲	۱	----- همسر، خانواده، دوستان و غیره	۵۲
					هنگامی که در مورد مسائل شخصیتان درخواست راهنمایی می کنید، افراد زیر به چه میزان شنونده خوبی برای شما هستند؟
۴	۴	۲	۱	----- سرپرست ها	۵۳
۴	۴	۲	۱	----- همکاران	۵۴
۴	۴	۲	۱	----- همسر، خانواده، دوستان و غیره	۵۵

لطفاً با کشیدن دایره دور بهترین گزینه، به سوالات زیر در خصوص میزان رضایتمندیان پاسخ دهید.

ناراضی	تأحدی نارضی	تا حدی راضی	راضی		
					از شغلم راضی هستم
۴	۴	۲	۱	-----	۵۶
۴	۴	۲	۱	-----	از زندگی خانوادگی ام راضی هستم
۴	۴	۲	۱	-----	۵۷

職業性ストレス簡易調査票の外国語版の作成に関する研究
- ポルトガル語版およびミャンマー語版 -

研究分担者 湯浅 資之 順天堂大学国際教養学部グローバルヘルスサービス領域 教授

研究要旨

「職業性ストレス簡易調査票」の日本語版を基に、主に在日ブラジル人向けのポルトガル語版および在日ミャンマー人向けのミャンマー語版を作成した。満足度に関する Cronbach α 係数は中等度を示したが、質問数が2つと小さかったからと考えられる。全体の Cronbach α 係数はポルトガル語版で0.95、ミャンマー語版で0.95であり、高い再現性と内部一貫性が確認された。

A. 研究背景および目的

厚生労働省の委託研究により開発された「職業性ストレス簡易調査票」の日本語版を基に、ポルトガル語版およびミャンマー語版を作成し、プレテストを実施する。

B. 研究方法

日本語とブラジル人が使用するポルトガル語、もしくはミャンマー語の両国語に堪能な研究協力者に、日本語からポルトガル語もしくはミャンマー語に翻訳し、別の研究協力者がポルトガル語もしくはミャンマー語を日本語に逆翻訳を行い、それが日本語原版と意味の齟齬がないか研究協力者同士で協議し合い、調整を行い、最終的な翻訳版を作成した。翻訳・逆翻訳の方法は世界保健機関の翻訳プロセス¹に準拠して実施した。

翻訳したポルトガル語版およびミャンマー語版を用いて、それぞれ東京新宿区に在住しているブラジル人30名と同じく同区在住のミャンマー人30名に対してプレテストを行い、信頼度を Cronbach α 係数で評価した。分析は Stata/MP15 を使用した。

C. 研究結果

在日ブラジル人が本調査票を使用する頻度が最

も高いことが想定されることから、ブラジル人使用のポルトガル語になるように翻訳を心掛けた。研究協力者により逆翻訳版と日本語原版との意味の齟齬が認められたのは、ポルトガル語で11か所、ミャンマー語で8か所であった。修正されたポルトガル語版およびミャンマー語版は添付資料の通りである。

調査票の項目別 Cronbach α 係数は下表の通りである。

調査票項目	ポルトガル語	ミャンマー語
A. 仕事関連ストレス	0.77	0.81
B. 1か月間の健康状態	0.96	0.95
C. 隣人との人間関係	0.89	0.75
D. 満足度	0.53	0.40
全体	0.95	0.95

D. 考察

主にブラジル人を対象とした職業性ストレス簡易調査票ポルトガル語版、およびミャンマー語版が作成された。満足度に関する Cronbach α 係数は中等度を示したが、これは質問数が2つと小さかったことに由来すると考えられる。全体ではポルトガル語版で0.95、ミャンマー語版で0.95であり、高い再現性と内部一貫性が確認された。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録

特に記載すべきものなし

I. 参考文献

1. World Health Organization. Process of translation and adaption of instruments. Accessed on Feb. 4. 2019. http://www.who.int/substance_abuse/research_tools/translation/en/

Questionário Simplificado de Estresse Ocupacional (57 perguntas)

A) Perguntas sobre o seu trabalho.

Assinale com ○ (círculo) no número que mais se aproxima de como você se sente.

		SIM	SIM em parte	NÃO em parte	NÃO
1.	Tenho que executar tarefas de quantidade excessiva	1	2	3	4
2.	Não consigo terminar as tarefas dentro do tempo determinado	1	2	3	4
3.	Tenho que trabalhar com toda a dedicação	1	2	3	4
4.	O meu trabalho exige muita concentração	1	2	3	4
5.	Minhas tarefas são difíceis e exige conhecimentos e capacidades de alto nível	1	2	3	4
6.	Tenho que sempre estar pensando no trabalho durante o expediente	1	2	3	4
7.	O meu trabalho exige muito movimento do corpo	1	2	3	4
8.	Tenho flexibilidade para determinar o meu ritmo de trabalho	1	2	3	4
9.	Tenho autonomia para realizar as tarefas na ordem ou na maneira como julgo melhor	1	2	3	4
10.	Tenho liberdade para opinar e influenciar na política do trabalho	1	2	3	4
11.	Poucas vezes preciso da capacidade e conhecimento que tenho para executar a minha tarefa	1	2	3	4
12.	Há discordância de ideias entre funcionários na minha divisão	1	2	3	4
13.	Existe dificuldade na comunicação entre a minha divisão e as outras divisões por não se darem bem	1	2	3	4
14.	O meu trabalho é de ambiente amigável	1	2	3	4
15.	O ambiente do meu trabalho não é adequado (em termos de barulho, iluminação, umidade, ventilação, etc.)	1	2	3	4
16.	Me indentifico com o conteúdo do trabalho que faço	1	2	3	4
17.	Meu trabalho é gratificante	1	2	3	4

B) Perguntas sobre a sua situação. Por favor, responda tendo em mente a sua situação no último mês para responder as questões

Assinale com (círculo) no número que mais se aproxima de como você se sente.

		Raramente	Às Vezes	Frequentemente	Quase Sempre
1.	Sensação de muita energia	1	2	3	4
2.	Sensação de estar bastante animado	1	2	3	4
3.	Sensação de estar cheio de vida	1	2	3	4
4.	Sensação de raiva	1	2	3	4
5.	Zangado por dentro	1	2	3	4
6.	Irritação	1	2	3	4
7.	Muito cansado	1	2	3	4
8.	Desgaste físico extremo	1	2	3	4
9.	Corpo mole	1	2	3	4
10.	Estar tenso	1	2	3	4
11.	Ansiedade	1	2	3	4
12.	Inquietação	1	2	3	4
13.	Se sentir deprimido	1	2	3	4
14.	Preguiça para tudo	1	2	3	4
15.	Falta de atenção	1	2	3	4
16.	Falta de ânimo	1	2	3	4
17.	Falta de concentração para trabalhar bem	1	2	3	4
18.	Tristeza	1	2	3	4
19.	Tontura	1	2	3	4
20.	Dor nas articulações	1	2	3	4
21.	Dor de cabeça ou sentir a cabeça pesada	1	2	3	4
22.	Dor (tensão) no pescoço ou ombro	1	2	3	4
23.	Dor nas costas	1	2	3	4
24.	Fadiga ocular (vista cansada)	1	2	3	4
25.	Palpitações no coração ou falta de ar	1	2	3	4
26.	Distúrbios digestivos	1	2	3	4
27.	Falta de apetite	1	2	3	4
28.	Prisão de ventre ou diarreia	1	2	3	4
29.	Falta de sono	1	2	3	4

C) Perguntas sobre as pessoas ao seu redor

Assinale com ○ (círculo) no número que mais se aproxima de como você se sente.

		Completamente	Muito	Pouco	Nada
Até que ponto você se sente à vontade para falar com as seguintes pessoas?					
1.	Chefe	1	2	3	4
2.	Colega de trabalho	1	2	3	4
3.	Cônjuge, familiares, amigos, etc.	1	2	3	4
Até que ponto você pode contar com as seguintes pessoas quando está precisando de ajuda?					
4.	Chefe	1	2	3	4
5.	Colega de trabalho	1	2	3	4
6.	Cônjuge, familiares, amigos, etc.	1	2	3	4
Até que ponto as seguintes pessoas prestariam atenção quando você pedir conselhos sobre o seu problema particular?					
7.	Chefe	1	2	3	4
8.	Colega de trabalho	1	2	3	4
9.	Cônjuge, familiares, amigos, etc.	1	2	3	4

D) Perguntas sobre o seu nível de satisfação

		SATISFEITO	SATISFEITO em parte	INSATISFEITO em parte	INSATISFEITO
1.	Nível de satisfação ao trabalho	1	2	3	4
2.	Nível de satisfação com a vida familiar	1	2	3	4

職業性ストレス簡易調査票(57項目)ミャンマー語版

လုပ်ငန်းခွင်ဆိုင်ရာ စိတ်ဖိစီးမှုစစ်တမ်း မေးခွန်းလွှာ (မေးခွန်းအရေအတွက် ၅၇ ခု)

(က) သင်၏လုပ်ငန်းခွင်နှင့်ပတ်သက်ပြီး မေးမြန်းပါမည်။ လက်ရှိအခြေအနေနှင့် အကိုက်ညီဆုံး အဖြေကို ကွင်းဝိုင်းပြီး ရွေးချယ်ပေးပါ။

		မှန်ပါသည်	အနည်းငယ်မှန်ပါသည်	သိပ်မမှန်ပါ	မမှန်ပါ
၁	အလုပ်တွေအများကြီး မလုပ်မနေရ လုပ်ရပါသည်။	၁	၂	၃	၄
၂	သတ်မှတ်ထားတဲ့အချိန်အတွင်း အလုပ်မပြီးနိုင်ဖြစ်နေပါသည်။	၁	၂	၃	၄
၃	ကျားကုတ်ကျားခဲကြီးစားပြီး မလုပ်လို့ မရပါ။	၁	၂	၃	၄
၄	အလွန်သတိထားပြီး အာရုံစိုက်ဖို့လိုအပ်ပါသည်။	၁	၂	၃	၄
၅	အဆင့်မြင့်တဲ့အသိပညာနဲ့ အတတ်ပညာ လိုအပ်သော ခက်ခဲသည့်အလုပ် ဖြစ်ပါသည်။	၁	၂	၃	၄
၆	အလုပ်ချိန်အတွင်း အမြဲတမ်း အလုပ်အကြောင်း မတွေးဘဲမနေနိုင်ပါ။	၁	၂	၃	၄
၇	ကာယအား အများကြီးလိုသော အလုပ်ဖြစ်သည်။	၁	၂	၃	၄
၈	မိမိအရှိန်လေးနဲ့ပုံမှန်အလုပ်လုပ်ဖြစ်ပါသည်။	၁	၂	၃	၄
၉	ဘာပြီးဘာလုပ်မယ်၊ဘယ်လိုလုပ်မယ်ဆိုသည်မှာ မိမိဘာသာ သတ်မှတ်လုပ်ကိုင်လို့ရသည်။	၁	၂	၃	၄
၁၀	လုပ်ငန်းရည်မှန်းချက်တွေမှာ မိမိစိတ်ကူးလေးတွေ ထည့်သွင်းခွင့်ရသည်။	၁	၂	၃	၄
၁၁	မိမိတတ်မြောက်ထားတဲ့ အတတ်ပညာနဲ့အသိပညာကို အလုပ်မှာ အသုံးပြုနိုင်ခြင်း သိပ်မရှိပါ။	၁	၂	၃	၄
၁၂	ဌာနတွင်းမှာ သဘောထားခြင်းမတိုက်ဆိုင်ခြင်းတွေ ရှိသည်။	၁	၂	၃	၄
၁၃	မိမိဌာနနဲ့ အခြားဌာနတွေနဲ့ သိပ်အဆင်မပြေပါ။	၁	၂	၃	၄
၁၄	အလုပ်လုပ်ရတဲ့ပတ်ဝန်းကျင်မှာ နွေးထွေး နှစ်လိုဖွယ် ကောင်းပါသည်။	၁	၂	၃	၄
၁၅	လုပ်ငန်းခွင်အခြေအနေ(အသံ၊အလင်းရောင်၊ရုယက်၊စိုထိုင်းဆ၊လေဝင်လေထွက်) က သိပ်မကောင်းပါ။	၁	၂	၃	၄
၁၆	မိမိလုပ်ရတဲ့အလုပ်မှာ မိမိနှင့်ကိုက်ညီမှုရှိသည်။	၁	၂	၃	၄
၁၇	ကျေနပ်ပျော်ရွှင်စရာကောင်းသည့် အလုပ်ဖြစ်သည်။	၁	၂	၃	၄

(ခ) ပြီးခဲ့တဲ့တစ်လအတွင်း သင်၏ စိတ်ပိုင်းဆိုင်ရာနှင့် ရုပ်ပိုင်းဆိုင်ရာ အခြေအနေနှင့် ပတ်သက်ပြီး မေးမြန်းပါမည်။
အကိုက်ညီဆုံး အဖြေကို ကွင်းဝိုင်းပြီး ရွေးချယ်ပေးပါ။

		လုံးဝမရှိ သလောက်ပါ	တစ်ခါတစ်ရံ	အတော်များများ	အမြဲတမ်းလိုလို
၁	တက်ကြွနေသည်။	၁	၂	၃	၄
၂	အားအင်အပြည့်ရှိသည်။	၁	၂	၃	၄
၃	လန်းဆန်းပျော်ရွှင်သည်။	၁	၂	၃	၄
၄	စိတ်ဆိုးခဲ့ သည်။	၁	၂	၃	၄
၅	စိတ်ထဲတွင် မကျေမနပ်ဖြစ်နေသည်။	၁	၂	၃	၄
၆	စိတ်ဆိုးလွယ်သည်။	၁	၂	၃	၄
၇	တော်တော်ပင်ပန်းနေသည်။	၁	၂	၃	၄
၈	နိုးနေသည်။	၁	၂	၃	၄
၉	အားအင်ကုန်ခန်းနေသည်။	၁	၂	၃	၄
၁၀	စိတ်တင်းကျပ်နေသည်။	၁	၂	၃	၄
၁၁	စိုးရိမ်နေသည်။	၁	၂	၃	၄
၁၂	ဂဏမငြိမ်ဖြစ်နေသည်။	၁	၂	၃	၄
၁၃	စိတ်ဓာတ်ကျနေသည်။	၁	၂	၃	၄
၁၄	ဘာပဲလုပ်လုပ် စိတ်မပါပါ။	၁	၂	၃	၄
၁၅	အလုပ်မှာ အာရုံစူးစိုက်လို့မရပါ။	၁	၂	၃	၄
၁၆	စိတ်မကြည်လင်ပါ။	၁	၂	၃	၄
၁၇	ပီပီပြင်ပြင် အလုပ် မလုပ်နိုင်ပါ။	၁	၂	၃	၄
၁၈	ဝမ်းနည်းနေမိသည်။။	၁	၂	၃	၄
၁၉	မူးနောက်နောက်ဖြစ်သည်။။	၁	၂	၃	၄
၂၀	အဆစ်အမြစ်နာကျင်ကိုက်ခဲ့သည်။။	၁	၂	၃	၄
၂၁	ခေါင်းလေးလာသလိုလိုဖြစ်ကာ ခေါင်းကိုက်သည်။။	၁	၂	၃	၄
၂၂	ဇက်ကြောတက်သည်။။	၁	၂	၃	၄
၂၃	ခါးနာသည်။။	၁	၂	၃	၄
၂၄	မျက်စိညှောင်းသည်။။	၁	၂	၃	၄
၂၅	ရင်တုန်ပြီး အသက်ရှုမဝဖြစ်သည်။။	၁	၂	၃	၄
၂၆	ဗိုက်မကောင်းပါ။	၁	၂	၃	၄
၂၇	စားချင်စိတ်မရှိပါ။	၁	၂	၃	၄
၂၈	ဝမ်းချုပ်၊ဝမ်းပျက်တာရှိသည်။။	၁	၂	၃	၄
၂၉	နှစ်နှစ်ခြိုက်ခြိုက် အိပ်မပျော်ပါ။	၁	၂	၃	၄

(ဂ) သင့်ပါတ်ဝန်းကျင်နှင့် ပတ်သက်ပြီး မေးပါမည်။ အကိုက်ညီဆုံး အဖြေကို ကွင်းဝိုင်းပြီး ရွေးချယ်ပေးပါ။

အောက်ဖော်ပြပါ သူများနှင့် မည်မျှ ပေါ့ပေါ့ပါးပါး တိုင်ပင်ဖူးပါသလဲ။		အမြဲတမ်း	အတော်များများ	အနည်းငယ်	တစ်ခါမှ မကြုံဖူးပါ
၁.	အထက်အရာရှိ	၁	၂	၃	၄
၂.	လုပ်ဖော်ကိုင်ဖက်	၁	၂	၃	၄
၃.	အိမ်ထောင်ဖက်၊ မိသားစု၊ သူငယ်ချင်း စသည်ဖြင့်	၁	၂	၃	၄
ပြဿနာတစ်ခုခုကြုံလျှင် မည်မျှ အားကိုးရပါသလဲ။					
၄.	အထက်အရာရှိ	၁	၂	၃	၄
၅.	လုပ်ဖော်ကိုင်ဖက်	၁	၂	၃	၄
၆.	အိမ်ထောင်ဖက်၊ မိသားစု၊ သူငယ်ချင်း စသည်ဖြင့်	၁	၂	၃	၄
ကိုယ်ရေးကိုယ်တာ ပြဿနာများ ဆွေးနွေးလျှင် မည်မျှ နားထောင် ပေးပါသလဲ။					
၇.	အထက်အရာရှိ	၁	၂	၃	၄
၈.	လုပ်ဖော်ကိုင်ဖက်	၁	၂	၃	၄
၉.	အိမ်ထောင်ဖက်၊ မိသားစု၊ သူငယ်ချင်း စသည်ဖြင့်	၁	၂	၃	၄

(ဃ) အားရကျေနပ်မှု

		ကျေနပ်ပါသည်	အနည်းငယ် ကျေနပ်ပါသည်	သိပ်မ ကျေနပ်ပါ	မကျေနပ်ပါ
၁	လုပ်ငန်းခွင်အပေါ် ကျေနပ်မှု ရှိပါသည်။	၁	၂	၃	၄
၂	မိသားစုဘဝအပေါ် ကျေနပ်မှု ရှိပါသည်။	၁	၂	၃	၄

職業性ストレス簡易調査票の外国語版の作成に関する研究 ベトナム語版の作成

研究分担者 和田 耕治 国際医療福祉大学医学研究科公衆衛生学専攻

研究要旨

ストレスチェックでは、職業性ストレス簡易調査票（57 項目）が標準となっている。外国人労働者の増加に伴い、今後アジア等の言語にて作成することが求められた。本分担研究班ではベトナム語版の作成を担当することとなった。本年度は、日本語版をベトナム語版に翻訳ならびに逆翻訳、第3者翻訳者の確認、ベトナム人医師の監修、ならびに再度翻訳者による改訂が行われ、ベトナム語版の作成を行った。また、来年度においては、データを取得するためその準備を行った。

A. 研究背景および目的

ストレスチェックでは、職業性ストレス簡易調査票（57 項目）が標準となっている。平成 29 年 6 月末現在、ストレスチェックは実施義務のある事業場の 82.9%で行われ、所属労働者の 78.0%が受け、0.6%に医師の面接指導が行われている。

平成 29 年 10 月末に、外国人労働者数は 1,278,670 人、雇用事業所数は 194,595 か所で、平成 19 年に届出が義務化されて以来、過去最高を更新している。国別は中国が最多（29.1%）、次にベトナム（18.8%）、フィリピン（11.5%）で、対前年伸び率は、ベトナム（39.7%）、ネパール（31.0%）が高かった。

こうした事情を踏まえてベトナム語版などの職業性ストレス簡易調査票の作成が求められた。本分担研究班では、今年度はベトナム語版の作成を行うこととした。また来年度にはベトナム語版のデータ取得を行うための準備を行うこととした。

B. 研究方法

ベトナム人で日本語検定試験（N1）を取得し、翻訳を業務として行っている者（翻訳者 V1）

が日本語からベトナム語に翻訳した。その後別のベトナム人で日本語検定試験（N1）を取得し、翻訳を行っている者（翻訳者 V2）がベトナム語から日本語に翻訳した。第3者で、ベトナム人で日本語検定試験（N1）を取得し、翻訳を業務として行っている者（翻訳者 V3）が翻訳の差については検討を行い、第1版のベトナム語案を作成した。これを、ベトナム人医師が確認し、用語の提案などを行った後に、翻訳者 V2 と V3 がマイナー改訂を行った。その後、再度日本語のバックトランスレーションを確認して最終とした。

C. 研究結果

別紙にベトナム語版を添付した。

また、期間中に、来年度のベトナム人を対象とした調査の計画を行った。来年度の計画を作成し、10 名程度のベトナム人労働者を対象に test-retest を行うこと、また妥当性の検証を行うために 100 名程度のデータを取得することを予定とした。

D. 考察

職業性ストレス簡易調査票のベトナム語版

はWHOなどで用いる翻訳手順により作成することができた。通常の手順に加え、ベトナム人医師の監修を得ることによって、さらに適切な用語を用いることができた。

今後、ベトナム人の労働者に施行を行う予定である。日本にて静岡県などに依頼して、協力の得られる機関の確保などを今後行う予定である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

特になし

2. 学会発表

特になし

H. 知的財産権の出願・登録

特に記載すべきものなし

I. 参考文献

特になし

**PHIẾU KHẢO SÁT ĐƠN GIẢN VỀ CĂNG THẲNG NGHỀ NGHIỆP
(57 HẠNG MỤC)**

A. Xin hỏi về công việc của bạn. Hãy khoanh tròn vào mức độ lựa chọn đúng nhất.

	Đúng vậy	Gần đúng vậy	Không đúng lắm	Không đúng
1. Có rất nhiều công việc phải làm	1	2	3	4
2. Không xử lý hết công việc trong thời gian hạn định	1	2	3	4
3. Phải làm việc Chăm chỉ nhất có thể	1	2	3	4
4. Cần phải hết sức tập trung chú ý	1	2	3	4
5. Công việc khó cần phải có kiến thức và trình độ kỹ thuật cao	1	2	3	4
6. Trong thời gian làm việc, lúc nào cũng phải suy nghĩ về công việc	1	2	3	4
7. Là công việc phải hoạt động thể lực rất vất vả	1	2	3	4
8. Có thể làm việc theo tốc độ của bản thân	1	2	3	4
9. Có thể tự quyết định thứ tự và cách làm việc theo ý mình	1	2	3	4
10. Có thể phản ánh ý kiến của bản thân về chính sách công việc của nơi làm việc	1	2	3	4
11. Kỹ năng và kiến thức của bản thân ít được sử dụng vào công việc	1	2	3	4
12. Trong bộ phận của tôi có sự bất đồng ý kiến	1	2	3	4
13. Bộ phận của tôi và bộ phận khác không hợp nhau lắm	1	2	3	4
14. Bầu không khí tại nơi làm việc của tôi thì thân thiện	1	2	3	4
15. Môi trường tại nơi làm việc của tôi (tiếng ồn, đèn chiếu sáng, nhiệt độ, thông khí v.v...) không tốt	1	2	3	4
16. Nội dung công việc khá phù hợp với bản thân	1	2	3	4
17. Là công việc đáng để làm	1	2	3	4

B. Xin hỏi về tình trạng của bạn trong 1 tháng gần đây. Hãy khoanh tròn vào mức độ lựa chọn đúng nhất.

Hầu
như
không
có

Thỉnh
thoảng
có

Thường
xuyên
có

Hầu
như
lúc
nào
cũng
có

1. Hoạt bát, sôi nổi	1	2	3	4
2. Khỏe mạnh tràn trề.....	1	2	3	4
3. Tràn đầy sức sống.....	1	2	3	4
4. Cảm thấy tức giận	1	2	3	4
5. Bực bội trong lòng.....	1	2	3	4
6. Cáu gắt	1	2	3	4
7. Cực kỳ mệt mỏi.....	1	2	3	4
8. Kiệt sức	1	2	3	4
9. Uể oải	1	2	3	4
10. Cảm thấy căng thẳng	1	2	3	4
11. Bất an.....	1	2	3	4
12. Bồn chồn lo lắng không yên.....	1	2	3	4
13. U uất, chán nản	1	2	3	4
14. Làm gì cũng thấy phiền phức	1	2	3	4
15. Không thể tập trung vào việc gì.....	1	2	3	4
16. Tâm trạng phiền muộn.....	1	2	3	4
17. Không tập trung vào công việc được.....	1	2	3	4
18. Cảm thấy buồn bã.....	1	2	3	4
19. Chóng mặt	1	2	3	4
20. Đau nhức các khớp xương.....	1	2	3	4
21. Nặng đầu, đau đầu	1	2	3	4
22. Đau mỏi vai, cổ.....	1	2	3	4
23. Đau thắt lưng	1	2	3	4
24. Mỏi mắt	1	2	3	4
25. Tim đập nhanh và thở dốc	1	2	3	4
26. Có những vấn đề về dạ dày , đường ruột.....	1	2	3	4
27. Chán ăn.....	1	2	3	4
28. Bị táo bón và/hoặc tiêu chảy.....	1	2	3	4
29. Ngủ không ngon giấc.....	1	2	3	4

C. Xin hỏi về những người xung quanh bạn. Hãy khoanh tròn vào mức độ lựa chọn đúng nhất.

Rất nhiều	Khá nhiều	Ít	Hoàn toàn không
--------------	--------------	----	-----------------------

Bạn có thể nói chuyện thoải mái với những người sau đây ở mức độ nào ?

- | | | | | |
|--|---|---|---|---|
| 1. Cấp trên | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. Đồng nghiệp tại nơi làm việc | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. Vợ/chồng, gia đình, bạn bè v.v..... | 1 | 2 | 3 | 4 |

Lúc gặp khó khăn, bạn có thể tin cậy những người sau đây ở mức độ nào?

- | | | | | |
|--|---|---|---|---|
| 4. Cấp trên | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. Đồng nghiệp tại nơi làm việc | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. Vợ/chồng, gia đình, bạn bè v.v..... | 1 | 2 | 3 | 4 |

Khi bạn trao đổi về các vấn đề của cá nhân mình, những người sau đây lắng nghe bạn ở mức độ nào?

- | | | | | |
|--|---|---|---|---|
| 7. Cấp trên | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. Đồng nghiệp tại nơi làm việc | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9. Vợ/chồng, gia đình, bạn bè v.v..... | 1 | 2 | 3 | 4 |

D. Về mức độ hài lòng

Hài lòng	Khá hài lòng	Hơi bất mãn	Bất mãn
-------------	--------------------	-------------------	------------

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1. Hài lòng với công việc | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. Hài lòng với cuộc sống gia đình..... | 1 | 2 | 3 | 4 |

職業性ストレス簡易調査票中国語版作成に関する研究

研究分担者 谷川 武 順天堂大学公衆衛生学講座 教授
遠藤 源樹 順天堂大学公衆衛生学講座 准教授

研究要旨

常時 50 人以上の労働者を使用する事業者には労働者のストレスチェックと面接指導の実施等が義務付けられており、ストレスチェックでは、職業性ストレス簡易調査票（57 項目）が標準となっている。日本で働く外国人労働者数で最多は中国であり、職業性ストレス簡易調査票中国語版の作成が求められている。2018 年 5 月から 9 月にかけて、職業性ストレス簡易調査票中国語版（BJSQ-Chinese version: 以下 BJSQ-C）の素案を作成した。2019 年度のフィールドでの BJSQ-C の信頼性妥当性研究実施に向けて、準備を進めている。

研究協力者

春山 康夫 獨協医科大学公衆衛生学講座准教授
邱 冬梅 国立精神・神経医療研究センター
富田 茂 高田馬場さくらクリニック院長
和田 裕雄 順天堂大学公衆衛生学講座准教授
野田 愛 順天堂大学公衆衛生学講座准教授
友岡 清秀 順天堂大学公衆衛生学講座助教
佐藤 准子 順天堂大学公衆衛生学講座助教
武藤 剛 順天堂大学衛生学講座

A. 研究背景および目的

平成 27 年の労働安全衛生法改正により、常時 50 人以上の労働者を使用する事業者には労働者のストレスチェックと面接指導の実施等が義務付けられた。ストレスチェックでは、職業性ストレス簡易調査票（Brief Job Stress Questionnaire: 以下、BJSQ）（57 項目）が標準となっている。平成 29 年 6 月末現在、ストレスチェックは実施義務のある事業場の 82.9%で行われ、所属労働者のうち 78.0%が受け、0.6%に医師による面接指導が行われている。一方、平成 29 年 10 月末に、外国人労働者数は 1,278,670 人、また、これを雇用する事業所数は 194,595 か所で、平成 19 年に届出が義務化さ

れて以来、過去最高を更新している。国別では、中国が最多で(29.1%)、次にベトナム(18.8%)、フィリピン(11.5%)の順で、対前年伸び率は、ベトナム(39.7%)、ネパール(31.0%)が高い。従って、外国語版職業性ストレス簡易調査票が必要とされ、翻訳のみでなく、その標準化(信頼性・妥当性の確立等)が求められている。英語版はすでに標準化され厚生労働省により公開されているが、他の言語については、静岡労働局により中国・ベトナム・ポルトガル語版が公開される一方で、スキャネット株式会社が中国・ベトナム・ポルトガル・タガログ語版を市販している。しかし、英語版以外では、バックトランスレーション、信頼性・妥当性などの必要な検討は行われていない。

B. 研究方法

職業性ストレス簡易調査票の中国語を作成・標準化し、文化の違い等を踏まえた、職場環境改善等に配慮すべき点を明らかにすることを目的とした。春山、邱、遠藤を中心として、職業性ストレス簡易調査票の日本語から中国語(案)を作成し、その後、Back translationを実施した。

C. 研究結果

2018年5月から9月にかけて、職業性ストレス簡易調査票中国語版(BJSQ-Chinese version: 以下BJSQ-C)の素案を、春山、邱、遠藤を中心とした作業チームで作成を開始した。パネル会議等を経てBack translationを実施し、BJSQ-C素案を作成した(資料1)。2019年度に実施予定のBJSQ-Cの信頼性妥当性研究のために、Work Limitation Questionnaire 中国語版(WLQ-C)を使用することを念頭に、米国・タフツ大学のDebra Lerner教授と情報共有を行い、WLQ-Cの使用許諾の実現性を検討した。また、2019年度のBJSQ-Cのフィールドとして、食肉加工会社で勤務する中国人約50名を念頭に、研究実施に向けた交渉を進めた。

D. 考察

2018年度の到達目標であったBJSQ-Cの素案を作成し、2019年度のフィールドでの研究実施、妥当性研究の実施に向けての準備を進めた。中国語版以外の研究事業と歩調を合わせながら、BJSQ-Cの信頼性妥当性研究を進めていく。

E. 結論

職業性ストレス簡易調査票中国語版(BJSQ-Chinese version: 以下BJSQ-C)の素案を作成し、2019年度のフィールドでのBJSQ-Cの信頼性妥当性研究実施に向けて、準備を進めている。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

今後、論文発表を予定している。

2. 学会発表

今後、学会発表を予定している。

H. 知的財産権の出願・登録

特に記載すべきものなし

I. 参考文献

1. 阿部裕. 外国人労働者の事業所への受け入れと職場のメンタルヘルス. 産業精神保健 26(特別号): 65-68, 2018
2. 李健實. 日本における高度の技術・知識を持つ外国人労働者の職業性ストレスとメンタルヘルス 日本人労働者との比較検討. ストレス科学研究 30: 90-101, 2015
3. 中嶋知世. 大木秀一. 外国人住民における健康課題の文献レビュー. 石川看護雑誌 12: 93-104, 2015
4. 李健實. 外国人労働者のメンタルヘルスと心理援助の現状と展望. 東京大学大学院教育学研究科紀要 52: 403-410, 2013
5. 柴田英治. 地域保健と職域保健の連携促進. 公衆衛生 80: 251-256, 2016

(资料1)

职业性压力简易调查问卷(57项)

1 是 2 大概是 3 不全是 4 不是

A 在下列问题中,请在最符合您工作情况的选项上画圈。

- | | | | | |
|-----------------------------|---|---|---|---|
| 1. 必须做大量的工作 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 不能按时完成工作 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 不得不拼命工作 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 工作时需要高度集中注意力 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 工作艰巨并且需要高度的知识和技术 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. 上班时工作的事情片刻都不能离开脑海 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. 需要消耗大量体力的工作 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. 自己可以掌握工作的进度 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9. 自己可以决定工作内容的顺序和工作方法 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10. 自己的意见在单位的工作方针中能够得到反映 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 11. 自己具备的技能和知识很少能在工作中发挥 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 12. 自己所在的工作部门内存在意见分歧 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 13. 自己所在的工作部门和其他的工作部门有不合的地方 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 14. 单位的工作氛围友好 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 15. 单位的工作环境(噪音、照明、温度、换气等)不好 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 16. 工作内容适合自己 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 17. 从事的工作有意义 | 1 | 2 | 3 | 4 |

B 请问您最近一个月的下列状况，请在最符合的状况的选项上画圈。

	1 几乎没有	2 偶尔有	3 经常有	4 几乎总有
1. 感到精神饱满	1	2	3	4
2. 浑身充满活力	1	2	3	4
3. 生气勃勃	1	2	3	4
4. 感到愤怒	1	2	3	4
5. 心里生闷气	1	2	3	4
6. 情绪烦躁	1	2	3	4
7. 十分疲劳	1	2	3	4
8. 精疲力尽	1	2	3	4
9. 疲惫乏力	1	2	3	4
10. 精神一直处于紧张状态	1	2	3	4
11. 感到不安	1	2	3	4
12. 静不下心来	1	2	3	4
13. 感到忧郁	1	2	3	4
14. 做什么都嫌麻烦	1	2	3	4
15. 对事对物无法集中精力	1	2	3	4
16. 心情不愉快	1	2	3	4
17. 无法着手工作	1	2	3	4
18. 感到悲伤	1	2	3	4
19. 感到头晕眼花	1	2	3	4
20. 全身各处关节疼痛	1	2	3	4
21. 感到头重头痛	1	2	3	4
22. 颈部或肩部有僵硬感	1	2	3	4

23. 感到腰痛	1	2	3	4
24. 感到眼睛疲劳	1	2	3	4
25. 有心悸或气短	1	2	3	4
26. 胃肠不适	1	2	3	4
27. 没有食欲	1	2	3	4
28. 有便秘或腹泻	1	2	3	4
29. 睡眠不好	1	2	3	4

C 在您周围的人员中，请在您认为最适合的选项上画圈。

1 非常可以 2 相当可以 3 多少可以 4 完全不可以

您可以与下列人员进行随意交谈吗？

1. 上司	1	2	3	4
2. 同事	1	2	3	4
3. 配偶、家人、朋友等	1	2	3	4

您遇到困难时、下列人员是否可以信赖？

4. 上司	1	2	3	4
5. 同事	1	2	3	4
6. 配偶、家人、朋友等	1	2	3	4

因个人的问题需要咨询时，下列人员是否可以与之商量？

7. 上司	1	2	3	4
8. 同事	1	2	3	4
9. 配偶、家人、朋友等	1	2	3	4

D 有关满足度

	1 满足	2 还算满足	3 稍有不满足	4 不满足
1. 对工作感到满足	1	2	3	4
2. 对家庭生活感到满足	1	2	3	4

職業性ストレス簡易調査票の外国語版の作成に関する研究 スペイン語・タガログ語版の作成

研究分担者 武藤 剛 順天堂大学医学部衛生学講座

研究要旨

労働安全衛生法第66条の10に係るストレスチェック制度における、労働者の心理的な負担の程度を把握するための検査で用いる質問票は、職業性ストレス簡易調査票（57項目）が標準である。わが国で就労するスペイン語圏やタガログ語圏出身外国人労働者の増加見込みとあいまって、本分担研究班ではスペイン語およびタガログ語版の作成を担当した。本年度は、日本語版をスペイン語版・タガログ語版に翻訳ならびに逆翻訳、第3者翻訳者の確認、スペイン語圏タガログ語圏等医学関係者の監修、ならびに再度翻訳者による改訂が行われ、来年度以降の現地調査での使用を想定した準備を実施した。

<研究協力者>

エスコバル 露 桜子
前千葉大学医学研究院、元エルサルバドル大学

平山 響子
横浜国際日本語学校

潤間 拓郎
ウルマ行政書士事務所

中川 隆太郎
多摩大学医療・介護ソリューション研究所

A. 研究背景および目的

労働安全衛生法第66条の10に係るストレスチェック制度における、労働者の心理的な負担の程度を把握するための検査で用いる質問票は、職業性ストレス簡易調査票（57項目）が標準となっている。平成29年6月末現在、ストレスチェックは実施義務のある事業場の82.9%で行われ、所属労働者の78.0%が受け、0.6%に医師の面接指導が行われている。一方、平成29年10月末に、外国人労働者数は1,278,670人、雇用事業所数は194,595か所で、平成19年に届出が義務化されて以来、過去最

高を更新している。中国（29%）、ベトナム（19%）、フィリピン（12%）等が占めている。今後さらに外国語圏出身で日本語能力が不十分である労働者が増加することが見込まれ、外国語版職業性ストレス簡易調査票の標準化（信頼性・妥当性確立等）が課題である。本研究分担では、スペイン語ならびにタガログ語版の信頼性・妥当性検証をめざして、今年度は次年度の現地調査で使用する調査票作成を実施した。

B. 研究方法

スペイン語圏生活歴がありスペイン語日本語英語の3か国語に堪能な翻訳者S1が、日本語からスペイン語に翻訳した。その後別の、同様にスペイン語圏生活歴があり3か国語に堪能な翻訳者S2がスペイン語を日本語に逆翻訳した。翻訳の差について第三者も交えて検討を行い、第1版のスペイン語版を作成した。医学関係者による用語のチェックを経て最終案とした。タガログ語についても同様のプロセスを実施した（翻訳者T1、T2）。

C. 研究結果

別紙にスペイン語版、タガログ語版を添付した。

D. 考察

職業性ストレス簡易調査票のスペイン語版およびタガログ語版はWHOで標準的に行われる翻訳手順により作成することができた。医学関係者による監査を通じて、より適切な用語の選択に努めるとともに、在日労働者の読解力水準を勘案した表現に留意した。

今後、スペイン語圏（中南米等）出身ならびにフィリピン人労働者を対象に今回作成した外国語版を用いた調査を行い、信頼性・妥当性の検討を行う予定である。なお政府の在留外国人統計（2018年6月）によれば、在留外国人（フィリピン）総数266,803人のうち都道府県別の最多は愛知（36,856人）、次いで東京（33,411人）、神奈川（22,174人）、埼玉（20,145人）等であった。在留資格では、永住者や日本人の配偶者等を除くと、技能実習2号口（15,456人）や技能実習1号口（11,610人）が多くなっている。これらを考慮しフィールド設定を行う予定である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表・学会発表

特になし

H. 知的財産権の出願・登録

特に記載すべきものなし

I. 参考文献

特になし

Formulario de encuesta simple sobre estrés ocupacional (57 ítems)

A. Son las preguntas sobre su trabajo. Por favor marque con un círculo la más apropiada

	Si	Algo así	No mucho	No
1. Tengo que hacer demasiado trabajo	1	2	3	4
2. No puedo terminar mi trabajo dentro de un horario	1	2	3	4
3. Tengo que trabajar con mucha intensidad	1	2	3	4
4. Se necesita poner mucha concentración	1	2	3	4
5. Es un trabajo difícil que se requiere alto grado de conocimientos y técnicas	1	2	3	4
6. Debo de pensar en el trabajo todo el tiempo durante el trabajo	1	2	3	4
7. Es un trabajo que requiere mucho trabajo físico	1	2	3	4
8. Puedo trabajar a mi propio ritmo	1	2	3	4
9. Puedo tomar decisiones en cuanto al orden y la manera de trabajar	1	2	3	4
10. En mi oficina puedo expresar mi opinión sobre la política de trabajo	1	2	3	4
11. Mis conocimientos y habilidades rara vez se utilizan en el trabajo	1	2	3	4
12. Existen discrepancia de opiniones dentro del departamento de trabajo.	1	2	3	4
13. Mi departamento y otros departamentos de la oficina no se llevan bien.	1	2	3	4
14. El ambiente de trabajo es amistoso	1	2	3	4
15. Mi entorno de trabajo no es bueno (por ejemplo, ruido, iluminación, temperatura, ventilación)	1	2	3	4
16. El contenido del trabajo encaja bien conmigo	1	2	3	4
17. Es un trabajo que vale la pena.	1	2	3	4

B. Sobre las preguntas de su condición en el último mes, favor de marcar con un círculo la más apropiada.

	Casi nunca	A veces	Frecuentemente	Casi siempre
1. Me siento con mucho ánimo	1	2	3	4
2. Estoy lleno de energía	1	2	3	4

3. Me siento con vida	1	2	3	4
4. Me siento enojado/a	1	2	3	4
5. Me siento frustrado/a por dentro	1	2	3	4
6. Estoy irritado/a	1	2	3	4
7. Siento un cansancio terrible.	1	2	3	4
8. Me siento agotado/a	1	2	3	4
9. Me siento con pereza	1	2	3	4
10. Me siento con desasosiego	1	2	3	4
11. Me siento preocupada/o	1	2	3	4
12. Me siento inquieto/a	1	2	3	4
13. Me siento melancólico/a	1	2	3	4
14. Siento pereza en hacer cualquier cosa	1	2	3	4
15. No puedo concentrarme en las cosas	1	2	3	4
16. No me siento alegre.	1	2	3	4
17. Me siento lleno de cosas en la mente que no puedo trabajar	1	2	3	4
18. Me siento triste	1	2	3	4
19. Siento náuseas	1	2	3	4
20. Me duele todas las partes del cuerpo	1	2	3	4
21. Siento la cabeza pesada y/o me duele la cabeza.	1	2	3	4
22. Siento duro el cuello y/o la espalda	1	2	3	4
23. Me duele la espalda inferior	1	2	3	4
24. Tengo la vista cansada	1	2	3	4
25. Siento palpitaciones y dificultad para respirar	1	2	3	4
26. Me siento mal del estómago y/o intestino	1	2	3	4
27. No tengo apetito	1	2	3	4
28. Tengo estreñimiento y/o diarrea	1	2	3	4
29. No puedo dormir bien	1	2	3	4

C Son preguntas sobre las personas que lo rodean. Por favor marque con un círculo el más apropiado.

	Muchísimo	Bastante	Un poco	Nada en absoluto
¿Con cuanta libertad pueden hablar con las				

siguientes personas?				
1. Jefe	1	2	3	4
2. Colega de trabajo.	1	2	3	4
3. Cónyuge, familia, amigos, etc.	1	2	3	4
Cuando está con problemas, ¿Qué tanto se puede confiar en las siguientes personas?				
4. Jefe	1	2	3	4
5. Colega de trabajo.	1	2	3	4
6. Cónyuge, familia, amigos, etc.	1	2	3	4
¿Qué tan bien le escucharán las siguientes personas cuando pida consejo sobre asuntos personales?				
7. Jefe	1	2	3	4
8. Colega de trabajo.	1	2	3	4
9. Cónyuge, familia, amigos, etc.	1	2	3	4

D Nivel de satisfacción

	Satisfecho	Algo satisfecho	Algo insatisfecho	Insatisfecho
1. Estoy satisfecho con mi trabajo	1	2	3	4
2. Estoy satisfecho con mi vida familiar	1	2	3	4

Simpleng palatanungan para sa Stress na mula sa Trabaho(57 Item)

Numero

Pangalan Kasarian Numero
 Lalaki Babae

Halimbawa ng marka

Mabuting halimbawa

Masamang halimbawa

- 1.Huwag magsulat saan man sa papel na ito maliban na lang sa hanay kung saan dapat ilagay ang sagot
- 2.Mariing maglagay ng marka gamit ang itim o na lapis o ballpen upang sumagot.

A. Ang mga sumusunod ay tungkol sa inyong trabaho.

Markahan ang pinaka-angkop para sa iyo.

Oo, Medyo oo, Hindi masyado, Hindi

- 1.Napakarami kong trabahong kailangang gawin
- 2.Hindi ko natatapos ang trabaho sa loob ng nakatakandang oras
- 3.Kailangan kong magtrabaho nang maigi
- 4.Kinakailangang talagang magtuon ako ng pansin
- 5.Mahirap ito na trabaho na nangangailangan ng mataas na antas ng kaalaman at teknolohiya
- 6.Kailangan palaging mag-isip tungkol sa trabaho sa mga oras ng trabaho
- 7.Ito ay isang trabahong masyadong ginagamit ang katawan
- 8.Maaari akong magtrabaho sa sarili kong bilis
- 9.Posible kong pasyahan sa aking sarili ang pagkakasunud-sunod at paraan sa pagsawa ng trabaho.
- 10.Maaari kong sabihin ang sarili kong opinyon tungkol sa mga patakaran sa trabaho sa lugar na pinagtatrabahuhan ko
- 11.Kaunti lang ang gamit ng aking kasanayan at kaalaman sa aking trabaho

12. Mayroong salungatan ng opinyon sa loob ng aking departamento sa trabaho
13. Hindi nakakasundo ang aking departamento sa mga ibang departamento ng kompanya
14. Palakaibigan at mababait ang mga tao sa lugar na pinagtatrabahunah ko
15. Hindi mabuti ang kapaligiran sa trabaho (ingay, liwanag, temperatura, bentilasyon, atbp.) ng lugar na pinagtatrabahuhan ko
16. Angkop sa akin ang mga pinagagawa sa akin sa trabaho ko
17. Nagbibigay kasiyahan sa aking ang trabahong ito

B. Ang mga sumusunod ay tungkol sa iyong kondisyon sa kamakailang 1 buwan. Markahan ang pinaka-angkop para sa iyo.

Halos wala, Mayroon paminsan-minsan, Madalas mayroon, Mayroon halos palagi

1. Maliksi ang aking pakiramdam
2. Puno ako sa sigla
3. Pakiramdam ko na puno ako sa buhay
4. Nakaramdamako ng galit
5. May galit sa akin kalooban
6. Labis ang nararamdaman kong pagod
8. Hapong -hapo ako
9. Matamlay
10. Masyadong tensyonado ang aking isip
11. Balisa ako
12. Hindi ako mapakali
13. May deperesyon ako
14. Ang lahat ng bahay na ginagawa ko ay magulo at nakaka-abala sa akin
15. Hindi ako makapagtuon ng pansin sa mga bagay-bagay
16. Nalulumbay ako
17. Hindi ako makapagtuon ng pansin sa aking trabaho
18. Nakaramdam ako ng pagkalungkot
19. Nakaramdam ako ng pagkahilo
20. May pananakit sa aking mga kasukasuan
21. Mabigat at masakit ang aking ulo

- 22.Naninigas ang aking leeg at balikat
- 23.Masakit ang aking likod
- 24.Pagod ang aking mga mata
- 25.May palpitasyon ako at kinakapos ang aking hininga
- 26.Masama ang kondisyon ng aking tiyan
- 27.Wala akong ganang kumain
- 28.May pagtitibi o pagtatae ako
- 29.Hindi sapat ang aking tulog

C.Ang mga sumusunod ay tungkol sa mga taong nakapaligid sa iyo.Markahan ang pinaka-angkop para sa iyo

Labis,Medyo,Hindi masyado,Hndi na

Gaano kadali para sa iyo na makipag-usap sa sumusunod na mga tao?

- 1.Amo o Manager
- 2.Mga kasamahan sa trabaho
- 3.Asawa, pamilya, kamag-anak, kaibigan,atbp

Kapag may problema ka, makakaasa ka ba ng tulong mula sa sumusunod?

- 4.Amo o Manager
- 5.Mga kasamahan sa trabaho
- 6.Asawa, pamilya, kamag-anak, kaibigan,atbp

Kung hihiling ka ng payo para sa iyong personal na problema, makakaasa ka bang mabigyan ng payo ng sumusunod?

- 7.Amo o Manager
- 8.Mga kasamahan sa trabaho
- 9.Asawa, pamilya, kamag-anak, kaibigan,atbp

D.Ang sumusunod ay tungkol sa iyong kasiyahan. Markahan ang pinaka-angkop para sa iyo.

Nasisiyahan, Medyo nasisiyahan, Medyo hindi nasisiyahan, Hindi nasisiyahan

1. Nasisiyahan ako sa aking trabaho

2. Nasisiyahan ako sa pamumuhay kasama ng aking pamilya

インドネシア語版職業性ストレス簡易調査票の開発とその日本における適用

研究分担者 小田切 優子 東京医科大学公衆衛生学分野 講師

研究要旨

平成 27 年より始まった改正労働安全衛生法によるストレスチェック制度は、従業員 50 人以上のすべての事業場において質問票によるストレス調査を実施することを事業者に課しているもので、外国人労働者にもその機会を提供する必要がある。そのためには外国語版職業性ストレス簡易調査票の標準化が必要であり、本分担研究ではインドネシア語版職業性ストレス簡易調査票の開発を担当することとなった。平成 30 年度は、インドネシア大学医学部の産業保健を専門とする研究者らに協力する形でインドネシア語版新職業性ストレス簡易調査票が開発された。開発の過程は、当該調査票の日本語からインドネシア語への翻訳、逆翻訳、オリジナルの日本語版新職業性ストレス簡易調査票開発に関わった研究者らによる逆翻訳に対するフィードバック、インドネシア国内での産業保健等の専門家による検討を行って、インドネシア国内での最終版インドネシア語版新職業性ストレス簡易調査票が完成した。インドネシア国内において労働者を対象にインドネシア語版新調査票を実施して心理測定学的検討を行ったところ、一部の尺度は寄与率が低いことからインドネシア語版新職業性ストレス簡易調査票では削除されることとなった。これにはインドネシアと日本の間にある労働に対する価値観や文化の違いが関与している可能性がある。Cronback- α 信頼性係数は 3 項目以上で構成される尺度で 0.62 以上あり良好であった。日本国内のストレスチェック制度でインドネシア語版を使用する場合は、日本人に使用する場合と同様に 57 項目版が推奨されるため、インドネシア国内版では削除された項目も含めて、日本国内用インドネシア語版職業性ストレス簡易調査票 57 項目を準備し、次年度に日本国内在住のインドネシア人労働者を対象にデータを収集し検討する予定である。

A. 研究背景および目的

平成 27 年より始まった改正労働安全衛生法によるストレスチェック制度では、従業員 50 人以上のすべての事業場において質問票によるストレス調査を実施することを事業者に課しているもので、外国人労働者にもその機会を提供する必要がある。そのためには外国語版職業性ストレス簡易調査票の標準化が必要であり、本分担研究ではインドネシア語版職業性ストレス簡易調査票の開発を行うこととなった。

平成 29 年末時点で日本在留の外国人は 256 万人おり、在留カード及び特別永住者証明書上

の国籍でインドネシア人は 10 位、49,982 人(構成比 2.0%) (前年比 16.6%増)となっている¹⁾。平成 30 年 12 月に出入国管理及び難民認定法が改正され、あらたな外国人材受け入れのための在留資格が創設された。これにともない、今後、日本国内の外国人労働者が増加することが見込まれており、インドネシア人労働者も増加すると予想される。したがって、信頼性と妥当性が確認されたインドネシア語版職業性ストレス簡易調査票は必須である。また、調査票はストレスチェック制度での使用を主目的とした活用が期待されることから、高ストレス者に該当すると判断するための点数の検討や、ストレスチェ

ック制度の主目的である一次予防に資するものとして職場環境改善のために活用できるか否かの検討も必要と考えられる。

本研究は3年計画であり、初年度の平成30年度は、インドネシア語版職業性ストレス簡易調査票の開発を目的とした。

B. 研究方法

日本語版新職業性ストレス簡易調査票80項目のインドネシア語版を、インドネシア大学医学部地域医療学講座および同大学産業保健学講座の研究者らに協力して作成した。はじめに日本語からインドネシア語への翻訳、続いてインドネシア語から日本語への逆翻訳を、それぞれインドネシア大学の翻訳者が行った。この逆翻訳日本語版について、オリジナルの調査票の開発者である東京大学大学院精神保健学川上憲人教授、北里大学医学部公衆衛生学井上彰臣講師および分担研究者の小田切が検討し、意味の不鮮明な点や日本語版との相違についてインドネシア人研究者にフィードバックした。インドネシア国内において、産業保健の専門家、精神科医、産業医、人事部門スタッフからなるグループで項目内容の見直しを行い、暫定版調査票が出来上がった。この暫定版調査票をインドネシア国内の複数名の労働者に回答してもらい認知的ブリーフィングを行った。この結果をもってさらに項目の修正を行い、インドネシア語版新職業性ストレス簡易調査票とした。

インドネシア国内の2事業場の労働者を対象に新職業性ストレス簡易調査票を配布し、得られたデータを因子分析し妥当性を、Cronback- α 係数を計測し信頼性を検討した。なお、研究内容はインドネシア大学医学部で承認を受けて実施されている。

C. 研究結果

分担研究者はインドネシア語版から日本語版に逆翻訳された60項目の内容を確認し、翻訳漏れ、表現内容の確認が必要な項目についてイン

ドネシア研究者にフィードバックした。ストレス要因である働きがい(a17)の質問項目「働きがいのある仕事だ」、支援の項目(c53-55)の「あなたの個人的な問題を相談したら次の人達はどのくらいきいてくれますか」という設問がインドネシア語への翻訳に若干の困難を生じていた。またストレス反応項目のうち、活気、イライラ感の一部の項目について、ニュアンスの違いを指摘した。日本語版とインドネシア語版で、表現の強さが同等となるよう工夫した。

インドネシア国内のエネルギー関連企業2事業場でインドネシア語版新職業性ストレス簡易調査票を実施し、全項目への回答を得ることができた438人の労働者データを検討した。80項目の因子分析にて因子負荷量が0.4以上の項目を残すプロセスを繰り返し実施して17項目を削除し、第一主成分を構成する項目を内容的に整理して、13因子、63項目からなるインドネシア語版新職業性ストレス簡易調査票が出来上がった。この過程で、仕事のストレス要因のうち、仕事の質的負担(3項目)、身体的負荷、職場環境の項目、および同僚からの支援3項目と上司からの支援1項目等がインドネシア語版では削除された。構成する13因子のCronback- α 信頼性係数の各数値は0.62~0.88で高かった。(現在投稿準備中)

日本国内におけるインドネシア語版職業性ストレス簡易調査票は、主にストレスチェック制度において用いられることから、日本国内版インドネシア語版職業性ストレス簡易調査票は、日本語と同じ57項目として準備することとした。

D. 考察

インドネシア大学医学部の研究者らの協力を得てインドネシア語版新職業性ストレス簡易調査票が作成され、オリジナルの57項目を含め心理測定特性の検討が行われ、高い内的信頼性および因子の妥当性が示された。

インドネシア国内の労働者のデータによる検討

で仕事の質的負担および同僚からの支援、上司からのサポートの項目が削除された理由は、この2尺度の質問項目の寄与率が低かったためである。このことについては、インドネシア人の労働に対する意識の違いが関与している可能性が考えられる。仕事の質的負担の項目は「かなり注意を集中する必要がある」「高度の知識や技術が必要な難しい仕事だ」「勤務時間中はいつも仕事のことを考えていなければならない」の3項目である。これら質的負担が、インドネシア人の対象者に課されていないなかったりストレス要因と認識されていない可能性がある。今回の対象はインドネシア国内のエネルギー関連企業で働くホワイトカラー労働者であり、一定以上の質的負荷も存在すると思われたが、業務内容の詳細を把握できておらずこれ以上の考察はできない。少なくとも次年度以降の日本国内在勤のインドネシア人労働者のデータについては、幅広い業種や職種から取得するよう努力し、このことが文化的な認識の違いによるものなのか検討する必要がある。

同僚からの支援の3項目、上司からの支援の1項目が削除されたことについても、文化的違いが関与している可能性が考えられる。同僚からの支援については、在日20年となるインドネシア人で、日本におけるインドネシア人技能実習生の支援を行っている国際支援員から得た情報によると、インドネシア人の楽しみは仲間と良く話し時間を共有することであり、親と教師と職場や学校での先輩は絶対的存在で、彼らに従い、またとても大切にしているとのことであった。インドネシア人労働者は他の外国人労働者と同様、ないしはそれ以上に親族・友人を頼る傾向が強いという指摘もある²⁾。したがって同僚からの支援の質問項目にあるような「気軽に話ができる」「困ったとき助けになる」「個人的な問題を相談したらどのくらいきいてくれるか」は当然のごとく行われている結果、ストレスと関連が低かった可能性がある。

一方、次年度以降、日本国内で就業するインドネシア労働者の検討にあたっては、対象者が就労している立場や、職場の業種や職種も勘案して検

討することが求められよう。インドネシア人の在留者49,982人のうち、技能実習生が21,894人と半数近くを占めている。技能実習生は日本で技術、知識を身に着けること、日本で働いた経歴に裏付けられる将来に重きを置き、また技能実習に参加するにあたって経済的負担を伴って来日する背景から、両親や自分を送り出して応援してくれている人々への感謝と恩返ししたいという言葉を口にするものが多いという³⁾。このような特性が、職業性ストレス、特にストレス要因に対する認知に影響する可能性があり、検討にあたっては注意が必要となるであろう。一方、日本国内の高度外国人材を対象とした先行研究において、「仕事の質的負担」と「職場の対人関係によるストレス」を行動外国人材がより強く感じており、「仕事の量的負担」と「職場環境」によるストレスは日本人より低かったという。また、高度外国人材は、上司からのサポートは得られているがそれが職場での対人関係でのストレスを弱める緩衝要因にはなっておらず、自らの国籍とは異なる上司の言動をむしろ対人関係に関するあらたな課題と捉えている可能性が指摘されている⁴⁾。したがって、文化的差異のみならず、どのような立場で働いているかによって、従来の職業性ストレスモデルの枠組みでは説明できない知見が示される可能性がある。

来年度、日本国内で働くインドネシア人を対象に本調査票を実施し日本国内用のインドネシア語版職業性ストレス簡易調査票を完成させる。当該調査票を使用して、在日インドネシア人労働者のメンタルヘルス対策の在り方、さらには彼らが働く事業場の職場環境改善をどのように行うことができるかを考えたい。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録

特に記載すべきものなし

I. 参考文献

1. 法務省報道発表資料平成29年末現在における在留外国人数について
http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri04_00073.html (平成31年2月4日アクセス)
2. 奥島美夏. 特集にあたって：インドネシア人労働者の国際動向と日本の雇用構造における位置づけ<特集茨城大洗町のインドネシア人コミュニティ>異文化コミュニケーション研究 17, 1-47, 2005
3. 李健實. 日本における高度の技術・知識を持つ外国人労働者の職業性ストレスとメンタルヘルス—日本人労働者との比較検討— ストレス科学研究 30 巻 p. 90-101 2015
4. 秋谷恭子「家族の期待に応えたい」・・・私が出会ったインドネシアの若者たちの胸の内。かけはし Vol136. p22. 2019 (財団法人国際研修協力機構)

「アジア圏における職業性ストレスに関する研究の動向：海外文献レビュー」

研究分担者 浦川 加代子 順天堂大学保健看護学部 教授

研究要旨

アジア圏の職業性ストレスに関する研究の知見を明らかにする目的で、88編の文献を検討した。その結果、インドを除いてはバーンアウトに関する研究を中心にメンタル不全者の早期発見・対応、相談体制・職場復帰に関する体制づくりに関連した研究の知見が蓄積されつつあるが、労働者の休職後の職場復帰訓練や精神障害等の症状に対する事例への対応に焦点をあてた研究は、まだ数少なく今後の研究課題であることが明らかになった。

国別の研究では、中国は、職業性ストレスに関連した各種の尺度開発が多く実施されており、最近では労働者個人を対象とした第2次・3次予防的な対策（第4区分）の効果判定に関する研究へと進展している。韓国では、職場でのストレス管理および精神健康増進の重要性が認識されており、心理社会的ストレスに着目した研究が多くみられる。台湾では、労働安全衛生に関する方針を明確にしていることから、今後さらに研究が進展していくことが予測される。

一方、インドでは、研究対象者が第一次産業に従事する労働者であり、心理社会的ストレスに関する内容やメンタルヘルス不全者の早期発見・対応につながる内容が見当たらない。また、その他の国としてタイ、イラン、モンゴル、インドネシア、レバノン、トルコ、イエメン、フィリピンでの研究は少なくこれから知見を蓄積していく段階であることが明らかになった。

このようにアジア圏における職業性ストレス研究は国別に進展の差が大きく、労働者個人を対象とした第2次・3次予防的な対策は欧米のように優勢ではないが、すでに始まっており今後増加していくことが予測された。

A. 研究背景および目的

近年、少子高齢化によって日本の労働人口は減少しており、特に中小企業の人出不足は深刻な状況にあることから、政府によって外国人労働者の受け入れ拡大をめざし2019年4月に改正入国管理法が施行される。新たな在留資格である「特定技能」を2段階で設け、従来認めてこなかった単純労働分野への受け入れにも道を開き14業種での受け入れを想定しており、特定技能1号での外国人受け入れ人数が5年間で最大約34万5千人が想定されている。

現在、日本国内に住む外国人人口は、統計比較が可能な2014年以降増加傾向にあり、約249

万7千人である（2018年1月1日時点）¹⁾。年代別では25歳～29歳が最も多く15%を占めており、20歳代を中心とした若い働き手である生産年齢人口が全体の85%である。

厚生労働省による「外国人雇用状況」の届出状況まとめ（2017年10月末時点）では、外国人労働者数は、1,278,670人（前年同期比194,901人、18.0%の増加）、2007年に届出が義務化されて以来、過去最高を更新している。雇用事業所数は194,595カ所で過去最高を更新している。日本で働いている外国人労働者の95%以上がアジア系外国人である。

国別労働者数では、中国が最も多く372,263人

(外国人労働者全体の 29.1%)、次いでベトナム 240,259 人 (同 18.8%)、フィリピン 146,798 人 (同 11.5%) の順である。対前年伸び率は、ベトナム (39.7%)、ネパール (31.0%) が高くなっている。外国人労働者数が増加した要因としては、政府が推進している高度外国人材や留学生の受入れが進んでいること、雇用情勢の改善が着実に進み、「永住者」や「日本人の配偶者」等の身分に基づく在留資格をもつ人々の就労が増えていること、技能実習制度の活用が進んでいること等が背景にあると考えられている 2)。

日本で働く外国人労働者は、異文化ストレスと職場における仕事ストレスの両方を受けている。日系ブラジル人の場合、民族的には日本人であるが育った文化的背景はブラジル人であるというアイデンティティの葛藤が生じ、そこでの適応がうまくいかないとうつ病・適応障害などの発病の要因になりうると報告されている。職場が同国人のコミュニティから孤立した環境である場合や、コミュニティがほとんどないアジア、アフリカからの外国人労働者にとって異文化ストレスはより強いことが指摘されている。また、職場では「仕事に関するストレス」を感じている者が半数以上を占めており、汚い・きつい・危険な 3K 労働に従事しながら低賃金で雇用不安を抱えている状況がある。このような熟練を要しない単純労働に従事する外国人労働者だけでなく、政府は留学生の国内就労を支援し大卒以上の学歴と専門能力を備えた高度外国人材の確保によって、グローバル化にも対応しようとしている 3)。外国人労働者が安心して長く働ける環境を整備していくには、言語やコミュニケーションの問題や生活困りごとに対処するだけでなく、職場での仕事満足度を高めることで離職を予防し異文化適応を促進する支援が必要になると考えられる。

労働者の働く環境が厳しい状況にあるのは、外国人労働者に限ったことではない。2016 年度の調査では、日本人労働者の 60.9%が職業性スト

レスを感じているという報告があり、現在の仕事や職業生活に関することで、強いストレスとなっていると感じる事柄がある労働者の割合は 59.5%となっている。強いストレスの内容 (3つ以内の複数回答) をみると、「仕事の質・量」が 53.8%と最も多く、次いで「仕事の失敗、責任の発生等」が 38.5%、「対人関係 (セクハラ・パワハラを含む)」が 30.5%となっている 4)。職業性ストレスには、長時間勤務や加重労働による身体的ストレスと、低裁量度、高要求度、低支援度の仕事、努力と報酬の不均衡、雇用不安などの心理社会的ストレスがある。職業ストレスの中でも、「対人関係からのストレス」が一番大きなストレス要因であることが指摘されている。そのため緩衝要因である上司および同僚からのソーシャルサポートを形成する取り組みがなされている。

このような状況を背景に労働者のメンタルヘルス不調に対して早期発見、早期介入を目的として、2015 年労働安全衛生法が改正され、常時 50 人以上の労働者を使用する事業者には 57 項目の職業性ストレス簡易調査票 (The Brief Job Stress Questionnaire: BJSQ) を標準としたストレスチェックを年 1 回実施し、労働者からの希望があれば産業医等による面接が義務付けられた。職業性ストレス簡易調査票を用いることで、「職業性ストレスの要因」「ストレス反応」「満足度」「ソーシャルサポート」を測定できる。職業性ストレスの要因は、心理的な仕事の量的負担、心理的な仕事の質的負担、自覚的な身体的負担度、職場の対人関係でのストレス、職場環境によるストレス、仕事のコントロール度、仕事の適性度、技能の活用度、働きがいの 9 つの下位尺度から構成され 4 件法で測定する。2017 年 6 月末の時点でストレスチェックは実施義務のある事業場の 82.9%で実施され、78.0%の労働者が受けている。

しかし、特に中規模事業場においては、外国人労働者に対しては十分に対応していないことが報告されている。その理由として、文化的な背

景が異なり、ストレスチェック調査票に回答する必要性を感じない、個人にメリットがないことには協力しない、仕事に直接関係しないことには負担感がある、回答の記入漏れやミスがあって内容が不十分、ストレスチェック調査票が母国語に対応していないなどが挙げられている5)。また、アジア人の特徴として、欧米人比べてメンタルヘルス不調に対するスティグマが大きいと、何らかの不調に気づいても表出することができず適切な対処をしないことが指摘されている。このような特性に加え、仕事を失いたくないことから不調を隠して働き続ける場合もある6)。

外国人労働者を対象としたストレスチェックの重要性は高まっているが、ストレスチェックの実施には、実施環境の整備や方法の工夫だけでなく翻訳した尺度の信頼性、妥当性の検討が急務とされている。このことから、平成30年度労災疾病臨床研究事業費補助金によって職業性ストレス簡易調査票の外国語版の作成に関する研究(研究代表者、横山和仁)が実施されている。本研究では、外国人労働者のメンタルヘルス不調の早期発見に向けて、職業性ストレス尺度の各言語への翻訳と関連して、日本で働く外国人労働者の大部分を占めるアジア圏において、現地企業の物理的・心理社会的職場環境および職場ストレスマネジメントの現状を把握し、職業性ストレスに関する研究の知見を明らかにすることで、本邦で実施されるメンタルヘルス不調の早期発見や支援を検討する際の一助となると考えた。

【目的】

アジア圏における各国の職業性ストレスに関する研究からの知見を明らかにする。

B. 研究方法

2018年8月、医学中央雑誌Web版によって、「職業性ストレス」と「アジア」をキーワードに検

索し157編の中から、解説5編、総説4編、特集2編を除く146編の論文を抽出した。国別の論文数は、日本が57編と最も多く、中国(香港2編、上海1編)21編、韓国20編、台湾14編、インド12編であり、その他9カ国は5編以下であった。東南アジア地域を対象とした1編は国の特定ができないため除外し、日本の論文を除く88編を分析対象とした。

Kompier and Macelissen (1990)が示した職場におけるストレスマネジメントの枠組みを用いて各文献を検討する。この枠組みは、働きかけの対象が職場の「作業環境」と「労働者」なのか、予防対策が「第1次予防」か「第2次・3次予防」なのかという2つの要素を組み合わせた4つの活動区分で示される7)。

4つの活動区分は、第1区分：作業時間・内容などの職場環境のストレス要因の評価と対策、第2区分：メンタルヘルス不全者の早期発見・対応、相談体制・職場復帰に関する体制づくり、第3区分：労働者個人を対象とした生活習慣改善、ストレスに関する教育・研修、健康診断・健康づくりにおけるストレス対策、第4区分：退職後の職場復職訓練、精神障害等の症状に対する精神療法やリラクゼーション法の実施など事例への対応からなる。

分析対象の論文の内容が、4つのストレスマネジメントのどこに焦点を当てて研究されているかを分類することで、各国の職場性ストレスに関する研究の動向を把握できると考えた。

C. 研究結果

抽出された88論文を国別に、中国、韓国、台湾、インド、その他(9カ国)として、各文献内容から「筆頭著者名」、「発行年」、「研究目的」、「対象」、「使用した尺度」、「結果」の項目ごとに分類した。

中国における職業性ストレスに関する研究論文では、2004年から2017年まで21編が抽出され、

医師・看護師・ヘルスケア従事者などの医療関係者を対象とした研究が8編であった。韓国では、2006年から2016年まで20編が抽出され2010年以降の研究が18編と多いことが特徴である。台湾では、2001年から2015年まで14編が抽出され、半数が医療従事者であり、特に看護師を対象とした研究が5編であった。インドにおいては、2003年から2015年まで12編あり、第一次産業に従事している労働者を対象としていることが特徴である。その他の国別では、タイ5編と一番多く、次いでマレーシアとイランが各4編、モンゴルとインドネシアが各2編であった。

さらに、中国、韓国、台湾、インド、その他の国別に分類した論文を小林(2005)が引用した7) 職場における「ストレスマネジメントの枠組み」(Kompier and Macelissen, 1990)の4つの活動区分に当てはめて分類した。この枠組みは、予防対策として第1次予防、第2次予防、第3次予防の次元と、対象が職場の作業環境あるいは労働者個人であるかによって分類されているため、国別の職業性ストレス研究が4つの活動区分のどこに焦点をあてているかを明らかにできると考えた。

一つ目の区分は、①作業時間・内容などの職場環境のストレス要因の評価と対策として、物理的・化学的作業環境・温熱・騒音などに関する内容が含まれた。二つ目の区分は、②メンタルヘルス不全者の早期発見・対応、相談体制・職場復帰に関する体制づくりとして、バーンアウト・うつ病・精神的健康などの内容である。三つ目の区分は、③労働者個人を対象とした活動区分として、生活習慣の改善、ストレスに関する教育・研修、健康診断・健康づくりにおけるストレス対策であり、身体疾患および症状・外傷・睡眠・疲労・運動・BMI・喫煙などの内容が含まれた。四つ目の区分は、④退職後の職場復帰訓練や精神障害等の症状に対する精神療法やリラクゼーション法の実施など事例への対応が含まれた。

D. 考察

小林(2005)によれば、欧米の文献レビューから、労働者個人を対象とした第2次・3次予防的な対策(第4区分)に入る活動がストレス対策として優勢であり、作業環境を取り扱ったものは数少ないことを報告している7)。また、ヨーロッパ7カ国(ドイツ・ギリシャ・アイルランド・イタリア・オランダ・スペイン・イギリス)を対象としたストレス対策に関する調査結果によれば、作業環境を中心とした第1次予防的な活動(第1区分)は、物理・化学的作業環境対策が多く、心理社会的要因へのアプローチが少ないことが示されている。

本研究では、第4区分の「事例への対応」を研究していたのは中国2編、マレーシア1編と少なかったが、2011年以降はこのような介入研究が実施されるようになったことがわかる。その内容をみると、中国では医療従事者を対象に森田療法の講義を含む心理学的活動を提供して効果をあげていた13)。また、中等教員を対象に簡易認知行動プログラムを実施して、仕事関連ストレスの軽減に有効であったと報告している23)。マレーシアでは、職場健康増進プログラムの一環としての漸進的筋弛緩法(PMR)が、対象者の主観的なストレス、不安、抑うつに効果的であったことを報告している83)。このようにアジア圏では、労働者個人を対象とした第2次・3次予防的な対策は欧米のように優勢ではないが、すでに始まっており今後増加していくと考えられる。

特に、中国では、職業性ストレスに関連した各種の尺度開発が多く実施されている。Job content questionnaire 中国版(C-JCQ)、努力-報酬不均衡モデル調査票中国版(C-ERI)、Maslach Burnout Inventory 中国版(C-MBI)14)、中国版職業性ストレス指標(OSI)15)、努力-報酬不均衡(ERI)アンケートの縮約版17)、Maslach B0 Inventory 中国版、Occupation Stress Inventory 改訂版18)、Personal Strain Questionnaire(PSQ)中国語版21)などがある。

2004年には、仕事内容質問票(JCQ)の中国本土版のバリデーション研究³¹⁾が実施されており、中国人を対象とした仕事ストレスの測定法が確立したことから、その後の研究が多く実施され、最近では労働者個人を対象とした第2次・3次予防的な対策(第4区分)の効果判定に関する研究へと進展していると考えられる。中国は人口が多いことから、実施される研究の対象者数が多く、バーンアウト(燃え尽き症候群、Burnout : B0)との関連では医師や看護師などの医療者を対象としている研究が多くみられる。

韓国では1999年に業務起因性の腰痛によって労働者が自殺したことを契機に、労働に関する大きな社会問題に発展し労働災害法が改正され、2000年7月以降は自殺と精神疾患は業務上の事故として補償されるようになった⁸⁾。

韓国では、職場でのストレス管理および精神健康増進の重要性が認識されており、心理社会的ストレスに着目した研究が多くみられる。心理社会的幸福度指数簡易版(PWI-SF)、韓国労働ストレス尺度簡易版(KOSS-SF)³³⁾、Korean Occupational Stress Scale³⁵⁾、Effort-Reward Imbalance (ERI) 韓国語版³⁸⁾、韓国職場ストレス尺度(KOSS)質問紙⁴⁰⁾、Korean Occupational Stress Scale 簡易型⁴²⁾ ⁴⁶⁾などの測定尺度も確立している。

2009年には、第1回韓国労働条件調査(2006年実施)の結果を第4回ヨーロッパ労働条件調査結果(2005年実施)と比較し、韓国の労働強度と労働満足度を考察している⁵⁰⁾。また、職業性ストレス対策として、Employees Assistance Program(従業員支援プログラム、EAP)サービスの活用もされている。一方で、過去10年間における労働災害や事故死は減少傾向にあるが、小規模事業所ではリスクの確率は高い状態にあることや、雇用者の30%以上が非正規労働者であり、外国人労働者の労働災害の発生率が高くなっていることなどの問題が指摘されている⁹⁾。

台湾では、②「メンタルヘルス不全者の早期発

見・対応、相談体制・職場復帰に関する体制づくり」の区分で、医師を対象とした職業性ストレスと抑うつとの関係⁵⁷⁾、法律家を対象とした職業性ストレスとバーンアウトとの関連⁶⁰⁾、看護師を対象として職務ストレスと身体的健康および精神的健康状態が関連していることを報告している⁶³⁾。2009年、労働安全衛生(OSH)項目を特定し台湾に適した方針の作成について検討する目的で、産業労働安全の専門家および担当者を対象に104の方針に関する指標を検討し、最も適切な目標は、「労働災害による障害率」、「労働災害による傷害率」、「2010年以前の職業病」を年間10%低下させることであると報告している⁵⁹⁾。このような労働安全衛生に関する方針を明確にしていることから、今後さらに研究が進展していくことが予測される。

インドの研究では、研究対象者が第一次産業に従事する労働者であることが特徴である。対象者は、ジャガイモ栽培に従事する女性労働者⁶⁶⁾、米収穫作業員⁶⁷⁾、就農児童⁶⁸⁾、自動車修理工⁶⁹⁾、建設作業員⁷⁰⁾、レンガ製造部門で働く10代女子⁷¹⁾、動力織機と手織機を扱う男女職工⁷²⁾、炭鉱夫⁷³⁾、農業従事者⁷⁴⁾、織物工場労働者⁷⁵⁾、男子鉱業労働者⁷⁶⁾、手に強い緊張を要する作業従事者(肉切り職人・タイピスト、服の仕立屋・VDT作業員・職工)⁷⁷⁾であり、すべて身体的に過酷な作業環境にあることがわかる。職業性ストレスと関連する重労働、長時間労働、暑熱暴露、作業姿勢などの物理的要因によって生じる生理学的負担、外傷性パターン、筋骨格障害(MSD)などの身体的ストレスを中心に研究が実施されている。心理社会的ストレスに関する内容やメンタルヘルス不全者の早期発見・対応につながる内容が見当たらないのは、インドの社会経済的発展の特徴と思われる。インドは経済的に発展途上国であり貧富の格差が大きく、社会的階級も存在する。一般的に、国内の社会経済的な格差が健康格差に影響していることが知られており、健康格差には、国家によってその程度やパターンに特徴があるこ

とが報告されている 10)。例えば、日本、英国、フィンランドの3カ国比較では、身体的健康度は社会経済的地位が低いほど健康度は低い傾向にあることは共通しており、精神的健康度も日本では同様の傾向を示したが、フィンランドでは地位が低いほど精神的健康度が高い結果を示し、国家間の差異が認められた。ワーク・ライフ・バランス、仕事の心理社会的ストレス、健康リスク行動なども国家間で違いがある。このことから、インドの国内では、同じアジア圏の国々と比較して社会経済的な格差が大きく、そのことが健康格差にも影響していると考えられる。10代の女子がレンガ製造部門で重労働に従事していたり、児童が農業に従事している状況が背景にあることから、職業性ストレスに関する研究は、第一次産業を中心とした物理的環境と身体的ストレスを中心に実施されていると考えられる。

タイの研究は5編と少なかったが、2014年にJob Content Questionnaire タイ語版の開発が行われている 79) ことから、今後の研究は増えていくと考えられる。マレーシアでは、2011年にグローバル化が労働者に与える職業性ストレスに関する研究が行われ 85)、2016年には職場健康増進プログラムの一環としての漸進的筋弛緩法(PMR)の介入効果判定が行われていることから、論文数は少ないが、職業性ストレスに関する研究内容には新規性がみられている。

イランでは4編の研究のうち2編が看護師を対象としており、2011年には仕事のストレス対策の過程に焦点を当てた Straus と Corbin の grounded theory approach を用いた質的研究が行われている 89)。職業性ストレスに関する研究には尺度を用いた量的研究が多い中で、質的研究からの知見を得ている点が新しい取り組みである。

モンゴルでは、医師および看護師を対象として2編の研究があり、2011年バーンアウトに関連する研究 92)、2016年は交替勤務に関連する不眠、眠気、疲労、ストレスについて検討がされていた 91)。その他の国では、インドネシア2編、レバノン、

トルコ、イエメン、フィリピンは各1編であった。トルコでは、2011年、柔道コーチを対象としてトルコ版 Maslach Burnout Inventory が開発されている 96)。2010年、イエメンでは医師を対象としてバーンアウトに関連する研究が行われている 97)。

各国の職業性ストレスとバーンアウト(燃え尽き症候群、Burnout : B0)に関する研究は、2010年前後から始まり全体で11編あった。内訳では中国が6編と最も多く、中国版 Maslach B0 Inventory を使用して近年も継続して研究が実施されている。

以上の内容から、アジア圏における職業性ストレスに関する研究は、インドを除いてはバーンアウトに関する研究を中心にメンタル不全者の早期発見・対応、相談体制・職場復帰に関する体制づくりに関連した研究の知見が蓄積されつつあるが、労働者の退職後の職場復帰訓練や精神障害等の症状に対する事例への対応に焦点をあてた研究はまだ数少ないことが明らかになった。このことから、今後、職場では外国人労働者を対象としたストレスチェックの重要性は高まっていくと考えられるが、ストレスチェックを実施する準備段階として、まだ労働環境とメンタルヘルスの関連について十分に理解ができていない外国人労働者に対する個別の教育や対応が必要であると思われた。

E. 健康危険情報

なし

F. 研究発表

産業医学ジャーナル(投稿中)

2. 学会発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録

特に記載するべきものなし

I. 参考文献

1. 総務省、「住民基本台帳に基づく人口、人口

動態及び世帯数」(平成30年1月1日現在)
http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01gyosei02_02000177.html

2018年7月11日(2018年8月1日 検索)

2. 厚生労働省, 「外国人雇用状況」の届出状況
まとめ:

<https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000192073.html>

(2018年8月26日 検索)

3. 大塚公一郎, 近藤州, 外国人労働者における
精神障害—日系ブラジル人労働者にみられる職
場の問題と異文化ストレス—, 精神治療学 22
(1); 61-67, 2007.

4. 厚生労働省, 平成28年「労働安全衛生調査
(実態調査)」の概況, 労働者調査, 仕事や職業
生活における不安やストレスに関する事項,
p, 20, 2017.

5. 三木明子, 産業看護職からみた中規模事業場
でのストレスチェック制度の実施, 産業精神保
健, 25巻(特別号): 34-37, 2017.

6. 李健實, 日本における高度の技術・知識を持
つ外国人労働者の職業性ストレスとメンタルヘ
ルス—日本人労働者との比較検討—, ストレス
科学研究, 30; 90-101, 2015.

7. 小林章雄, 海外のストレスマネジメント—シ
ンポジウム/変革期の社会問題への取り組み—
職場のメンタルヘルス第45回日本心身医学会
総会(北九州2004年), 心身医学, 45
(2), 119-125, 2005.

8. 小林章雄, 平成12年委託研究報告書, 精神障
害の労災補償に関する諸外国の制度に関する研
究, p. 22, 平成13年3月.

9. Sei-Jin Chang, 韓国における職業性ストレ
スの現状と将来の方向性, 基調講演, 産業スト
レス研究, 16, 195-210, 2009.

10. 関根道和, 社会経済的要因による脳卒中危
険因子の格差—日本・英国・フィンランドの国
際比較研究の結果から—, 日本予防医学会雑誌,
6: 69-80, 2011.

11. Yang Yang, Chan Albert Ping-Chuen. Role of
work uniform in alleviating perceptual
strain among construction workers.
Industrial Health 2017; 55(1): 76-86.

12. Zou Guiyuan, Shen Xiuying, Tian Xiaohong,
Liu Chunqin, Li Guopeng, Kong Linghua, Li
Ping. Correlates of psychological distress,
burnout, and resilience among Chinese female
nurses. Industrial Health 2016; 54(5):
389-395.

13. Wang Yandong, Wu Yan, Jin Xuelong. To
alleviate the mental stress of the hospital
staff by the use of Morita therapy. Journal
of Brain Science 2015; 45: 35-44.

14. Wang Zhihui, Xie Zhenyu, Dai Junming,
Zhang Liqian, Huang Yunbiao, Chen Bo.
Physician Burnout and Its Associated
Factors: A Cross-sectional Study in Shanghai.
Journal of Occupational Health 2014; 56(1):
73-83.

15. Lin Qiu-Hong, Jiang Chao-Qiang, Lam Tai
Hing. The Relationship between Occupational
Stress, Burnout, and Turnover Intention
among Managerial Staff from a Sino-Japanese
Joint Venture in Guangzhou, China. Journal of
Occupational Health 2013; 55(6): 458-467.

16. Lin Sihao, Liu Baoying, Wu Chuancheng, Zhou Hui, Courtice Midori N., Zhu Dandan. Interaction between Occupational Stress and GR Gene Polymorphisms on Essential Hypertension among Railway Workers. *Journal of Occupational Health* 2013; 55(5): 349-358.
17. Li Jian, Loerbroks Adrian, Shang Li, Wege Natalia, Wahrendorf Morten, Siegrist Johannes. Validation of a Short Measure of Effort-Reward Imbalance in the Workplace: Evidence from China. *Journal of Occupational Health* 2012; 54(6): 427-433.
18. Wu Siying, Li Huangyuan, Zhu Wei, Lin Shaowei, Chai Wenli, Wang Xiaorong. Effect of Work Stressors, Personal Strain, and Coping Resources on Burnout in Chinese Medical Professionals: A Structural Equation Model. *Industrial Health* 2012; 50(4): 279-287.
19. Sun We, Fu Jialiang, Chang Ying, Wang Lie. Epidemiological Study on Risk Factors for Anxiety Disorder among Chinese Doctors. *Journal of Occupational Health* 2012; 54(1): 1-8.
20. Xu Weixian, Hang Juan, Gao Wei, Zhao Yiming, Cao Tingting, Guo Lijun. Association between Job Stress and Newly Detected Combined Dyslipidemia among Chinese Workers: Findings from the SHISO Study. *Journal of Occupational Health* 2011; 53(5): 334-342.
21. Sun Wei, Wu Hui, Wang Lie. Occupational Stress and Its Related Factors among University Teachers in China. *Journal of Occupational Health* 2011; 53(4): 280-286.
22. Wu Si-Ying, Li Huang-Yuan, Tian Jun, Zhu Wei, Li Jian, Wang Xiao-Rong. Health-related Quality of Life and Its Main Related Factors among Nurses in China. *Industrial Health* 2011; 49(2): 158-165.
23. Leung Sharron S.K., Chiang Vico C.L., Chui Y.Y., Mak Y.W., Wong F.K. A Brief Cognitive-behavioral Stress Management Program for Secondary School Teachers. *Journal of Occupational Health* 2011; 53(1): 23-35.
24. Zhou Mei, Wege Natalia, Gu Huakang, Shang Li, Li Jian, Siegrist Johannes. Work and Family Stress is Associated with Menstrual Disorders but not with Fibrocystic Changes: Cross-sectional Findings in Chinese Working Women. *Journal of Occupational Health* 2010; 52(): 361-366.
25. Xu Weixian, Hang Juan, Cao Tingting, Shi Rong, Zeng Wenshuang, Deng Yuanfei, Gao Wei, Zhao Yiming, Guo Lijun. Job Stress and Carotid Intima-media Thickness in Chinese Workers. *Journal of Occupational Health* 2010; 52(5): 257-262.
26. Ng Kris, Yeung Joanne, Cheung Ivy, Chung Andrew, White Peter. Workplace Violence: A Survey of Diagnostic Radiographers Working in Public Hospitals in Hong Kong. *Journal of Occupational Health* 2009; 51(4): 355-363.
27. Xu Weixian, Zhao Yiming, Guo Lijun, Guo Yanhong, Gao Wei. Job Stress and Coronary Heart Disease: A Case-control Study using a Chinese Population. *Journal of Occupational Health* 2009; 51(2): 107-113.

28. Chen Wei-Qing, Wong Tze Wai, Yu Ignatius Tak-Sun. Association of Occupational Stress and Social Support with Health-related Behaviors among Chinese Offshore Oil Workers. *Journal of Occupational Health* 2008; 50(3): 262-269.
29. Yu Shanfa, Gu Guizhen, Zhou Wenhui, Wang Sheng. Psychosocial Work Environment and Well-Being: A Cross-Sectional Study at a Thermal Power Plant in China. *Journal of Occupational Health* 2008; 50(2): 155-162.
30. Zhong Fei, Yano Eiji, Lan Yajia, Wang Mianzhen, Wang Zhiming, Wang Xiaorong. Mental Ability and Psychological Work Performance in Chinese Workers. *Industrial Health* 2006; 44(4): 598-603.
31. Li Jian, Yang Wenjie, Liu Ping, Xu Zhefeng, Cho Sung-Il. Psychometric Evaluation of the Chinese (Mainland) Version of Job Content Questionnaire: A Study in University Hospitals. *Industrial Health* 2004; 42(2): 260-267.
32. Park Moon-Hee, Kim Ham-Gyum, Lee Hae-Kag. Analysis of stress, musculoskeletal disorders, and fatigue among broadcasting actors. *Journal of Physical Therapy Science* 2016; 28(11): 3047-3053.
33. Lee Kyungjin, Suh Chunhui, Kim Jong-Eun, Park Jae Oh. The impact of long working hours on psychosocial stress response among white-collar workers. *Industrial Health* 2017; 55(1): 46-53.
34. Bae Young-Hyeon, Min Kyoung Sam. Associations between work-related musculoskeletal disorders, quality of life, and workplace stress in physical therapists. *Industrial Health* 2016; 54(4): 347-353.
35. Cho Ki Hun, Cho Hwi-Young, Han Gyeong-Soon. Risk factors associated with musculoskeletal symptoms in Korean dental practitioners. *Journal of Physical Therapy Science* 2016; 28(1): 56-62.
36. Heo Yong-Seok, Leem Jong-Han, Park Shin-Goo, Jung Dal-Young, Kim Hwan-Cheol. Job stress as a risk factor for absences among manual workers: a 12-month follow-up study. *Industrial Health* 2015; 53(6): 542-552.
37. Seok Hongdeok, Yoon Jin-Ha, Won Jong-Uk, Lee Wanhyung, Lee June-Hee, Jung Pil Kyun, Roh Jaehoon. Concealing Emotions at Work Is Associated with Allergic Rhinitis in Korea. *The Tohoku Journal of Experimental Medicine* 2016; 238(1): 25-32.
38. Kim Yun Kyung, Cha Nam Hyun. Correlations among occupational stress, fatigue, and depression in call center employees in Seoul. *Journal of Physical Therapy Science* 2015; 27(10): 3191-3194.
39. Yoo Minsang, Lee Saerom, Kang Mo-Yeol. Gender and educational level modify the relationship between workplace mistreatment and health problems: a comparison between South Korea and EU countries. *Journal of Occupational Health* 2015; 57(5): 427-437.
40. Seok Jong-Min, Cho Jae-Hwan, Jeon Woo-Jin, Ahn Jae-Ouk. Risk factors for fatigue and stress among Korean police officers. *Journal*

- of Physical Therapy Science 2015; 27(5): 1401-1405.
41. Lee Jin, Lee Hae-Kag, Cho Jae-Hwan. A study on the relationship between stress and fatigue and the musculoskeletal symptoms experienced by Korean radiation workers. *Journal of Physical Therapy Science* 2015; 27(2): 427-431.
42. Roh Hyolyun, Lee Daehee, Kim Yongjae. Prevalence of Work-related Musculoskeletal Symptoms and Their Associations with Job Stress in Female Caregivers Living in South Korea. *Journal of Physical Therapy Science* 2014; 26(5): 665-669.
43. Lee Hyeonkyeong, Ahn Hyunmi, Miller Arlene, Park Chang Gi, Kim Sun Jung. Acculturative Stress, Work-related Psychosocial Factors and Depression in Korean-Chinese Migrant Workers in Korea. *Journal of Occupational Health* 2012; 54(3): 206-214.
44. Lee Jung-Hoon, Yoo Won-Gyu. The Mechanical Effect of Anterior Pelvic Tilt Taping on Slump Sitting by Seated Workers. *Industrial Health* 2011; 49(4): 403-409.
45. Lee In Hee, Park Sang Young, Seo Suk Tae, Kim Yoon Nyun. A Survey of the Subjective Quality of Life of Clinical Physical Therapists and Factors Affecting Their Work Satisfaction Factors. *Journal of Physical Therapy Science* 2011; 23(3): 503-508.
46. Kim Hwan-Cheol, Kim Byeong-Kwon, Min Kyoung-Bok, Min Jin-Young, Hwang Sang-Hee, Park Shin-Goo. Association between Job Stress and Insomnia in Korean Workers. *Journal of Occupational Health* 2011; 53(3): 164-174.
47. Park Jungsun, Kim Yangho, Hisanaga Naomi. Work-related Cerebrovascular and Cardiovascular Diseases (WR-CVDs) in Korea. *Industrial Health* 2011; 49(1): 3-7.
48. Lee Young-Mi. Loss of Productivity due to Depression among Korean Employees. *Journal of Occupational Health* 2010; 52(6): 389-394.
49. Lee Kyoung-Ho, Yoon Kijung, Ha Mina, Park Jungsun, Cho Soo-Hun, Kang Daehee. Heart Rate Variability and Urinary Catecholamines from Job Stress in Korean Male Manufacturing Workers According to Work Seniority. *Industrial Health* 2010; 48(3): 331-338.
50. Park Jungsun, Lee Naroo. First Korean Working Conditions Survey: A Comparison between South Korea and EU Countries. *Industrial Health* 2009; 47(1): 50-54.
51. Park Jungsun, Ha Mina, Yi Yunjeong, Kim Yangho. Subjective Fatigue and Stress Hormone Levels in Urine according to Duration of Shiftwork. *Journal of Occupational Health* 2006; 48(6): 446-450.
52. Lin Pei-Chen, Chen Chung-Hey, Pan Shung-Mei, Chen Yao-Mei, Pan Chih-Hong, Hung Hsin-Chia, Wu Ming-Tsang. The association between rotating shift work and increased occupational stress in nurses. *Journal of Occupational Health* 2015; 57(4): 307-315.

53. Chou Li-Ping, Li Chung-Yi, Hu Susan C. Work-Related Psychosocial Hazards and Arteriosclerosis: A Cross-Sectional Study Among Medical Employees in a Regional Hospital in Taiwan. *International Heart Journal* 2015; 56(6): 644-650.
54. Chen Wang-Yi, Lo Chuh-Lun, Chen Chen-Peng, Juang Yow-Jer, Yoon Chungsik, Tsai Perng-Jy. Prioritizing Factors Associated with Thermal Stresses Imposed on Workers in Steel and Iron Casting Industries Using the Monte Carlo Simulation and Sensitivity Analysis. *Journal of Occupational Health* 2014; 56(6): 505-510.
55. Tzeng Dong-Sheng, Chung Wei-Ching, Yang Chun-Yuh. The Effect of Job Strain Psychological Morbidity and Quality of Life in Military Hospital Nurses in Taiwan: A Follow-up Study. *Industrial Health* 2013; 51(4): 443-451.
56. Lee Wei-Lun, Tsai Shieunt-Han, Tsai Chao-Wen, Lee Chia-Ying. A Study on Work Stress, Stress Coping Strategies and Health Promoting Lifestyle among District Hospital Nurses in Taiwan. *Journal of Occupational Health* 2011; 53(5): 377-383.
57. Wang Liang-Jen, Chen Chih-Ken, Hsu Shih-Chieh, Lee Sheng-Yu, Wang Chin-Sheng, Yeh Wan-Yu. Active Job, Healthy Job? Occupational Stress and Depression among Hospital Physicians in Taiwan. *Industrial Health* 2011; 49(2): 173-184.
58. Lin Yen-Hui, Chen Chih-Yong, Hong Wei-Hsien, Lin Yu-Chao. Perceived Job Stress and Health Complaints at a Bank Call Center: Comparison between Inbound and Outbound Services. *Industrial Health* 2010; 48(3): 349-356.
59. Chuang Kuen-Yuan, Su Teh-Sheng, Kuo Chao-Yin, Lin Chien-Liang, Lin Han-Yu, Yu Yi-Chun. Study on Occupational Safety and Health Strategy for Taiwan. *Industrial Health* 2009; 47(6): 656-663.
60. Tsai Feng-Jen, Huang Wei-Lun, Chan Chang-Chuan. Occupational Stress and Burnout of Lawyers. *Journal of Occupational Health* 2009; 51(5): 443-450.
61. Lin Hsin-Tsui, Lin Li-Chan, Shiao Judith S.C. The Impact of Self-perceived Job Stress on Menstrual Patterns among Taiwanese Nurses. *Industrial Health* 2007; 45(5): 709-714.
62. Lee Hsin-Yi, Yeh Wen-Yu, Chen Chun-Wan, Wang Jung-Der. Prevalence and Psychosocial Risk Factors of Upper Extremity Musculoskeletal Pain in Industries of Taiwan: A Nationwide Study. *Journal of Occupational Health* 2005; 47(4): 311-318.
63. Shen Hsiu-Chuan, Cheng Yawen, Tsai Perng-Jy, Lee Su-hsing S., Guo Yueliang Leon. Occupational Stress in Nurses in Psychiatric Institutions in Taiwan. *Journal of Occupational Health* 2005; 47(3): 218-225.
64. Chung Fen-Fang, Yao Chuan-Chiang Chou, Wan Gwo-Hwa. The Associations between Menstrual Function and Life Style/Working Conditions among Nurses in Taiwan. *Journal of Occupational Health* 2005; 47(2): 149-156.
65. Su Chien-Tien. Association Between Job

- Strain Status and Cardiovascular Risk in a Population of Taiwanese White-Collar Workers. *Japanese Circulation Journal* 2001; 65(6): 509-513.
66. Pal Amitava, De Sujaya, Sengupta Piyali, Maity Payel, Mahata Hiranmoy, Shaikh Saijuddin, Dhara Prakash C. Physiological Strain Among Women Potato cultivators In West Bengal, INDIA. *Journal of Human Ergology* 2015; 44(2): 61-74.
67. Sahu Subhashis, Sett Moumita, Kjellstrom Tord. Heat Exposure, Cardiovascular Stress and Work Productivity in Harvesters in India: Implications for a Climate Change Future. *Industrial Health* 2013; 51(4): 424-431.
68. Das Banibrata, Ghosh Tirthankar, Gangopadhyay Somnath. Child Work in Agriculture in West Bengal, India: Assessment of Musculoskeletal Disorders and Occupational Health Problems. *Journal of Occupational Health* 2013; 55(4): 244-258.
69. Vyas Heer, Das Subir, Mehta Shashank. Occupational Injuries in Automobile Repair Workers. *Industrial Health* 2011; 49(5): 642-651.
70. Sahu Subhashis, Chattopadhyay Soumen, Basu Kumkum, Paul Goutam. The Ergonomic Evaluation of Work-related Musculoskeletal Disorders Among Contraction Labourers Working in Unorganized Sectors In West Bengal, INDIA. *Journal of Human Ergology* 2010; 39(2): 99-109.
71. Sahu Subhashis, Sett Moumita, Gangopadhyay Somnath. An Ergonomic Study on Teenage Girls Working in The Manual Brick Manufactureing Units In The Unorganized Sectors In West Bengal, INDIA. *Journal of Human Ergology* 2010; 39(1): 35-44.
72. Nag Anjali, Vyas H, Nag PK. Gender Differences, Work Stressors and Musculoskeletal Disorders in Weaving Industries. *Industrial Health* 2010; 48(3): 339-348.
73. Dey Netai Chandra, Samanta Amalendu, Saha Ratnadeep. Cardiovascular Load Assessment of Coal Mine Shovelers In West Bengal, INDIA: A Comparison Between Middle Age Groups. *Journal of Human Ergology* 2006; 35(1-2): 41-44.
74. Nag Pranab Kumar, Nag Anjali, Ashtekar Shirish Pratap. Thermal Limits of Men in Moderate to Heavy Work in Tropical Farming. *Industrial Health* 2007; 45(1): 107-117.
75. Bedi Raman. Evaluation of Occupational Environment in Two Textile Plants in Northern India with Specific Reference to Noise. *Industrial Health* 2006; 44(1): 112-116.
76. Ghosh Apurna Kumar, Bhattacharjee Ashis, Chau Nearkasen. Relationships of Working Conditions and Individual Characteristics to Occupational Injuries: A Case-Control Study in Coal Miners. *Journal of Occupational Health* 2004; 46(6): 470-478.
77. Gangopadhyay Somnath, Ray Arpita, Das Avijit, Das Tamal, Ghoshal Goutam, Banerjee Prasun, Bagchi Sonchita. A Study on Upper Extremity Cumulative Trauma Disorder in Different Unorganised Sectors of West Bengal,

- India. *Journal of Occupational Health* 2003; 45(6): 351-357.
78. Sihawong Rattaporn, Sitthipornvorakul Ekalak, Paksaichol Arpalak, Janwantanakul Prawit. Predictors for chronic neck and low back pain in office workers: a 1-year prospective cohort study. *Journal of Occupational Health* 2016; 58(1): 16-24.
79. Kaewboonchoo Orawan, Yingyuad Boonrord, Rawiworrakul Tassanee, Jinayon Adchara. Job Stress and Intent to Stay at Work among Registered Female Nurses Working in Thai Hospitals. *Journal of Occupational Health* 2014; 56(2): 93-99.
80. Tawatsupa Benjawan, Lim Lynette L.-Y., Kjellstrom Tord, Seubsman Sam-ang, Sleigh Adrian, the Thai Cohort Study Team. Association Between Occupational Heat Stress and Kidney Disease Among 37816 Workers in the Thai Cohort Study (TCS). *Journal of Epidemiology* 2012; 22(3): 251-260.
81. Sein Muang Muang, Howteerakul Nopporn, Suwannapong Nawarat, Jirachewee Jirachai. Job Strain among Rubber-Glove-Factory Workers in Central Thailand. *Industrial Health* 2010; 48(4): 503-510.
82. Kamchuchat Chalermrat, Chongsuvivatwong Virasakdi, Oncheunjit Suparnee, Yip Teem Wing, Sangthong Rassamee. Workplace Violence Directed at Nursing Staff at a General Hospital in Southern Thailand. *Journal of Occupational Health* 2008; 50(2): 201-207.
83. Sundram Bala Murali, Dahlui Maznah, Chinna Karuthan. Effectiveness of progressive muscle relaxation therapy as a worksite health promotion program in the automobile assembly line. *Industrial Health* 2016; 54(3): 204-214.
84. Aazami Sanaz, Mozafari Mosayeb, Shamsuddin Khadijah, Akmal Syaquirah. Work-family conflict and sleep disturbance: the Malaysian working women study. *Industrial Health* 2016; 54(1): 50-57.
85. Idris Mohd Awang, Dollard Maureen F., Winefield Anthony H. The Effect of Globalization on Employee Psychological Health and Job Satisfaction in Malaysian Workplaces. *Journal of Occupational Health* 2011; 53(6): 447-454.
86. Edimansyah Bin Abidin, Rusli Bin Nordin, Naing Lin, Abdullah Bin, Rusli Mohamed, Winn Than, Hussin Bin Raja, Ariff Tengku Mohamed. Self-perceived Depression, Anxiety, Stress and Their Relationships with Psychosocial Job Factors in Male Automotive Assembly Workers. *Industrial Health*; 46(1): 90-100.
87. Vatani Javad, Golbabaee Farideh, Dehghan Somayeh Farhang, Yousefi Azam. Applicability of Universal Thermal Climate Index (UTCI) in occupational heat stress assessment: a case study in brick industries. *Industrial Health* 2016; 54(1): 14-19.
88. Mazloumi Adel, Rostamabadi Akbar, Nasl Saraji Gabraeil, Rahimi Foroushani Abbas. Work Ability Index (WAI) and Its Association with Psychosocial Factors in One of the Petrochemical Industries in Iran. *Journal of Occupational Health* 2012; 54(2): 112-118.

89. Jannati Yadollah, Mohammadi Rakhshandeh, Seyedfatemi Naeimeh. Iranian Clinical Nurses' Coping Strategies for Job Stress. *Journal of Occupational Health* 2011; 53(2): 123-129.
90. Choobineh Alireza, Movahed Mehrnoosh, Tabatabaie Sayed Hamidreza, Kumashiro Masaharu. Perceived Demands and Musculoskeletal Disorders in Operating Room Nurses of Shiraz City Hospital. *Industrial Health* 2010; 48(1): 74-84.
91. Vandannyam Davaakhuu, Pagva Buyanjargal, Dashtseren Amarsaikhan, Togoo Altantsetseg, Dalkh Tserendagva. Sleep Disorders and Fatigue in Mongolian Nurses. *関西看護医療大学紀要* 2016; 8(1): 70-76.
92. Bagaajav Ariunsanaa, Myagmarjav Sugarmaa, Nanjid Khuderchuluun, Otgon Saranchuluun, Chae Young Moon. Burnout and Job Stress among Mongolian Doctors and Nurses. *Industrial Health* 2011; 49(5): 582-588.
93. Sudiajeng Lilik, Adiputra Nyoman, Leibbrandt Richard. ERGONOMICS WORK STATIONS DECREASES THE HALTH IMPAIRMENT AND SAVES ELECTRICAL ENERGY AT THE WOODWORKING WORKSHOP IN BALI, INDONESIA. *Journal of Human Ergology* 2012; 41(1-2): 41-54.
94. Sriwarno Andar Bagus, Shimomura Yoshihiro, Iwanaga Koichi, Katsuura Tetsuo. The Evaluation of The Effect of Stool Height Alteration on Workload of Squatting Postures Performed By Indonesians With Different Body Mass Index(BMI). *Journal of Human Ergology* 2006; 35(1-2): 31-39.
95. Ghaddar Ali, Hajj Kayan Omar, Dokmak Maha, Kansour Nadine Abou, Jbara Zeina, Laham Sandy, Samaha Ali. Work-related Stress and Urinary Catecholamines among Laboratory Technicians. *Journal of Occupational Health* 2013; 55(5): 398-404.
96. Gencay Selcuk, Gencay Okkes Alpaslan. Burnout among Judo Coaches in Turkey. *Journal of Occupational Health* 2011; 53(5): 365-370.
97. Al-Dubai Sami Abdo Radman, Rampal Krishna Gopal. Prevalence and Associated Factors of Burnout among Doctors in Yemen. *Journal of Occupational Health* 2010; 52(1): 58-65.
98. Lu Jinky Leilanie. Manufacturing Work and Organizational Stresses in Export Processing Zones. *Industrial Health* 2009; 47(5): 543-550.

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

報告書

発表者氏名	報告書名	巻号	出版地	出版年	ページ
横山 和仁 湯浅 資之 和田 耕治 谷川 武 遠藤 源樹 浦川 加代子 武藤 剛 小田切 優子	職業性ストレス簡易調査票の外 国版の作成に関する研究 労災疾病臨床研究事業費補助金 平成30年度総括・分担研究報告 書（本冊子）	平成30年度	東京	2019年	1-58

雑誌

発表者氏名	論文タイトル	発表誌名	巻号	ページ	出版年
なし					

Ⅳ. 研究成果の刊行物・別刷

なし

